

金沢大学 イノベーションレポート

Vol.1

2008-10



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

金沢大学イノベーション創成センター
Center for Innovation Kanazawa University

CONTENTS

- 01 巻頭のことば
「干菓子も菓子なれば、水菓子も菓子」
金沢大学イノベーション創成センター長 吉國 信雄
- 02 文部科学省産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）の紹介
- 03 産学官連携の声
「2年目の挑戦」
金沢大学産学官地域アドバイザー
財団法人石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部 部長 酒井 正二
- 05 アナウンス
- 05 産学官連携推進本部及びイノベーション創成センターについて
- 13 イノベーション創成センター特任教授・助教紹介
- 15 客員教員紹介
- 19 産学官地域アドバイザー紹介
- 22 共同研究等
- 22 平成19年度 共同研究一覧
- 29 平成20年度シーズ発掘試験（A・B）採択一覧
- 30 制度・支援
- 30 金沢大学イノベーション創成センター協力会入会のご案内
- 31 金沢大学イノベーション創成センター協力会
産学コーディネーターの紹介
- 33 共同研究について
- 35 科学技術相談・技術アドバイスサービスについて
- 38 広 報
- 48 イノベーション創成センター刊行物の紹介
- 49 金沢大学の産学官連携の展開
－最近の新聞報道より－
- 54 産学官連携の最前線「トライアングル」
(財石川県産業創出支援機構「イシコ」Vol.40より転載)

金沢大学産学官連携関係一覧



干菓子も菓子なれば、 水菓子も菓子



イノベーション創成センター長
吉国 信雄

イノベーション創成センターが去る4月に発足して、半年になろうとしています。ようやく、新たな組織としての個性が発揮できつつあるのではと感じております。今年度から開始されることになった文部科学省5カ年事業「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」の「特色ある優れた産学官連携活動の推進」を行う機関として金沢大学は選ばれましたが、この事業では、「事業化」「地域」「人材育成」が活動を特色付けるキーワードとなっています。地域ニーズの発掘から、具現化、事業化へのお手伝いを本センターの個性として発揮していきたいと考えております。

こうした活動を行っていく際に、最近強く感じることは、固定観念から脱却することが、簡単に見えて実は大変難しいということです。人は無意識のうちに個々の経験に縛られており、共通の言葉で話していても、実はお互いが違ったことを想像しながら自分の価値観に沿った理解をしていることを、イノベーション創出の現場では実感することが多くなりました。

そうしたギャップに悩んでいるとき、自分の想いが人に伝わらないことに当惑しているとき、ふと脳裏に浮かんだ言葉が、“干菓子も菓子なれば、水菓子も菓子”というフレーズです。菓子という言葉で全てが分かったつもりになっていても、ある人は饅頭や大福を想像し、茶道を嗜む人は上品な干菓子を連想するかもしれません。水菓子を広辞苑で調べたところ、水菓子とは果物とありました。だったら、果物だって菓子ということになるのでしょうか。

ここから学ぶことは二つあります。一つは、あらゆることに柔軟に対応をすることの大切さ。そしてもう一つは、今までの発想から完全に脱却することの大切さです。

イノベーションを含んだ言葉で、最近よく聞く言葉に、“オープン・イノベーション”と“地域イノベーション”がありますが、当センターの役割は、これらの大きな変化に柔軟な対応をし、かつ、大胆な提案をすることにあるのではないのでしょうか。

オープン・イノベーションの時代における共同研究は、その進展とともに、大学と企業の一対一の関係から複数大学対複数企業の関係にも展開することとなり、共同研究成果の知財管理に関しても、新たな仕組みや発想が必要となってきています。オープンであるが故に競争は激化し、かつ継続性が要求されています。イノベーション創出現場における研究は、短距離走ではなく、いわば多くの選手が絡んでくる駅伝レースのようなもの。多くの人にバトンタッチができ、またそれが発展するための知財戦略、ライセンス方針が極めて大きな比重を占めてくることになるのではないのでしょうか。とは言っても、技術分野ごとの特性も忘れてはならず、また、研究戦略との整合性も担保しなければなりません。これまで以上に柔軟な発想が要求されるということになります。

また、地域イノベーションを考えるにあたって大切なことは、地域に住んでいる人たち、あるいは住みたいと考えている人たちの“顔”や“心”を忘れてはならないことです。ということは、地域に入っていくことだけでなく、従来の産学官連携人脈とは異なる人たちとのネットワークの形成が不可欠となります。農工商連携、医商工連携といった言葉を頻繁に聞くことがありますが、本センターとしても真正面からこの課題に取り組んでいきたいと考えており、努力すべき課題は山積みです。だからこそ、従来の産学官連携に因りえない手法が大切になってきているともいえます。

こうした想いを実現するためには、多くの方々のご理解と協力を頂く必要がありますが、そのために忘れてはならないことは、“土俵は内ではなく外にあること”ではないかと考えています。

怯むことなく、屈することなく、“干菓子も菓子なれば、水菓子も菓子”精神を忘れずに……

文部科学省産学官連携戦略展開事業 （戦略展開プログラム）に採択されました。

■文部科学省 「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」とは

- 平成15年度～平成19年度まで実施された「大学知的財産本部整備事業」を引き継ぐ事業
- 平成20年度～平成25年度までの実施を予定

- ① 国際的な産学官活動の推進
- ② 特色ある優れた産学官連携活動の推進
- ③ 知的財産活動の基盤強化

の3つのメニューがあり、本学では、「②特色ある優れた産学官連携活動の推進」を行う機関として採択されました。

■金沢大学の行う戦略展開プログラム 「特色ある優れた産学連携活動の推進」とは

- 「事業化」「地域」「人材育成」がキーワード
- 地域ニーズシーズの発掘から、具現化、事業化への道筋づくりのお手伝い

金沢大学では、「事業化」「地域」「人材育成」の3点を特色として打ち出し、地域シーズ・ニーズの発掘から、具現化、事業化への道筋づくりのお手伝いに取り組んでいきます。また、その提案・実施成果を、海外を視野に入れて全国へ発信展開していきます。具体的な事業計画としては以下のものを計画しています。

- ビジネススクリエイト道場
- 知財マイスター派遣事業
- プロデュース人材の養成
- 全国及び海外への発信
- 提案テーマデータベースの作成 など

■ビジネススクリエイト道場

平成16年度から平成17年度に開催した「ビジネススクリエイト工房」を発展させ、テーマ別に地域の企業人、学内外の研究者、自治体関係者を対象にした事業創造セミナーを行います。今年度は農工商連携を中心テーマとし、来年度以降は、医商工連携など、様々なテーマについて行う予定です。

■提案テーマデータベース

幅広い異なる分野の連携のための研究シーズはもとより、地域の様々なニーズを蓄積・整理し、系統的なマッチングや事業プロデュースを行うための仕組みを構築します。

また、その他には、プロデュース人材の育成、知財マイスター派遣事業、企業キャラバン、などの事業にも取り組みます。

2年目の挑戦



金沢大学産学官地域アドバイザー
財団法人石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部
部長 酒井 正二

石川県産業創出支援機構（ISICO）に勤めて2年目に入った。その前任は石川県庁土木部河川課であるから、全く別世界の感があった。それも、「プロジェクト推進部」という所属で、「産学官連携、研究開発支援」を担当する部署である。

1年目である昨年（H19）は、とりあえず従来までの取り組みを踏襲する形で仕事を進めてきたが、当然のことながら疑問点や改善案が自分自身の心の中に生じてきた。その様な意味では、昨年の自分自身のキーワードは「習いながら慣れる」であったが、2年目の本年（H20）は、「挑」（いどむ）である。

プロジェクト推進部の究極の目的は、産学官連携を通しての研究開発の支援であり、それらの成果は、県内中小企業の技術力の向上、提案力の強化である。その成果への最大の課題は、「広報の強化」であると位置づけ、ISICOのいろんな施策を如何に利用者である中小企業の皆様へ見える形で伝えられるかを模索した。そして、アリバイづくりのような広報ではなく、成果として見える形で結果を出すための取り組みを始めることとした。

その取り組みの第一弾は、「ご用聞き企業訪問」と称する訪問スタイルの導入である。これを商工会議所、商工会などが発行する機関誌に広報すると共に、業界団体の総会や役員会などにも積極的に出向き、支援制度の内容の周知を行った。

ものづくり基盤技術の高度化支援 ～ご用聞き訪問実施中～

石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部

石川県産業創出支援機構では、昨年度より加賀地区の中小企業の皆様の「ものづくり基盤技術の高度化」を支援する活動を行っています。

平成18年度は「モノづくり産業クラスターフォーラム」を開催し、ものづくり基盤技術の高度化の必要性を再認識していただくための機会を創出するとともに、産学・産業間連携を促進するためのネットワーク構築事業（セミナー・研究会等）に取り組みました。

本年度（平成20年度）は昨年度に続き、中小企業の皆様の「ものづくり」への取り組みや、技術的な課題についてお聞きする『ご用聞き訪問』を実施し、そのお話の中で御提案をいただいたニーズ・シーズに対応するため、石川県工業試験場や大学等と連携しながら問題解決に取り組んでいきたいと考えております。

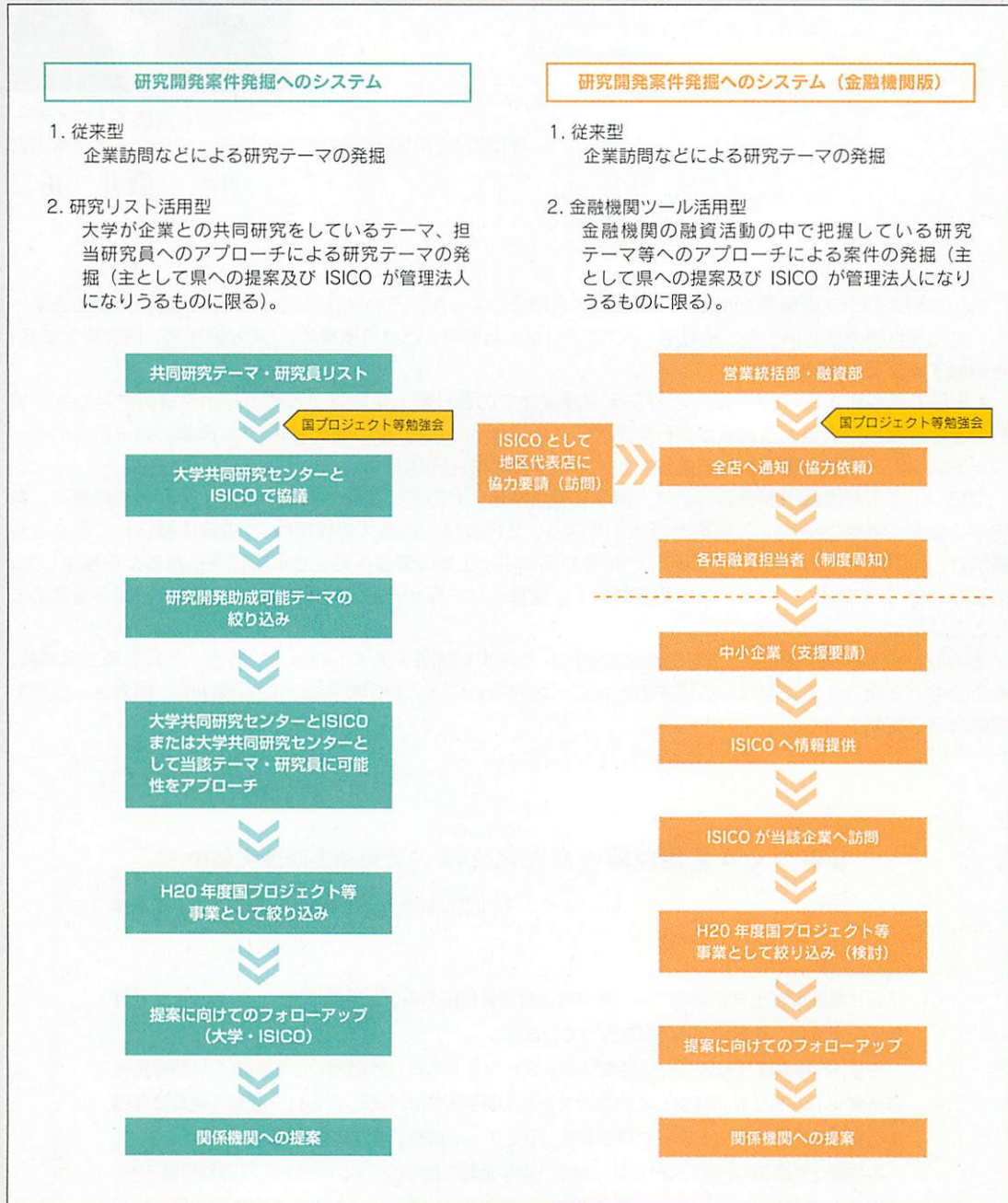
これらの成果の一つとして、国のプロジェクトなどに提案できるようなものづくり基盤技術の高度化を目指します。

なお、展示会の出展や受注調達についても支援をしておりますのでご相談下さい。

【お問い合わせ】

石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部 研究交流課（辻江、門前、谷内）
TEL 076-267-6291 FAX 076-268-1322 E-mail project@isico.or.jp

さらに第二弾として、県内大学の共同研究センターや金融機関とのコラボレーションによる情報発信や、情報収集にも取り組んでいる。具体的には、県内大学の研究者や金融機関の融資担当者を対象に、それぞれの大学、金融機関で支援制度説明会を実施し、支援制度の啓蒙普及に努めている。



その取り組みの一つの成果として、県内中小企業と大学、工業試験場等による共同研究連携体による国・県などへの補助金へのエントリー件数がこれまでに比べ大幅に増加した。さらに、当然のことながら、エントリー件数が増えれば、提案内容も充実されるし、採択件数も増えることになる。もし、初年度で採択されなくとも、エントリーの経過や結果を踏まえて次年度へのブラッシュアップにもつながることとなる。

これまでの取り組みに対する評価・吟味を加えながら、継続すべきものは継続し、不要な取り組みは廃止するというスタンスの中で、さらなる手法を模索しながら共同研究案件発掘のための挑戦を続けていきたいと思う。

そうして、仕事への取り組みに対する基本姿勢であるコスト・スピード・サービスの重視に加え、顧客満足度の向上を旨とし、クイックレスポンス(即時対応)とワンストップサービス(自己完結対応)な対応の中で、時には、自己特徴である身長（193cm）と人的ネットワーク構築の中から、産学官連携をきっかけとして、中小企業の発展の一助としての橋渡し役となれればと願いつつ、日々新たな2年目の挑戦である。

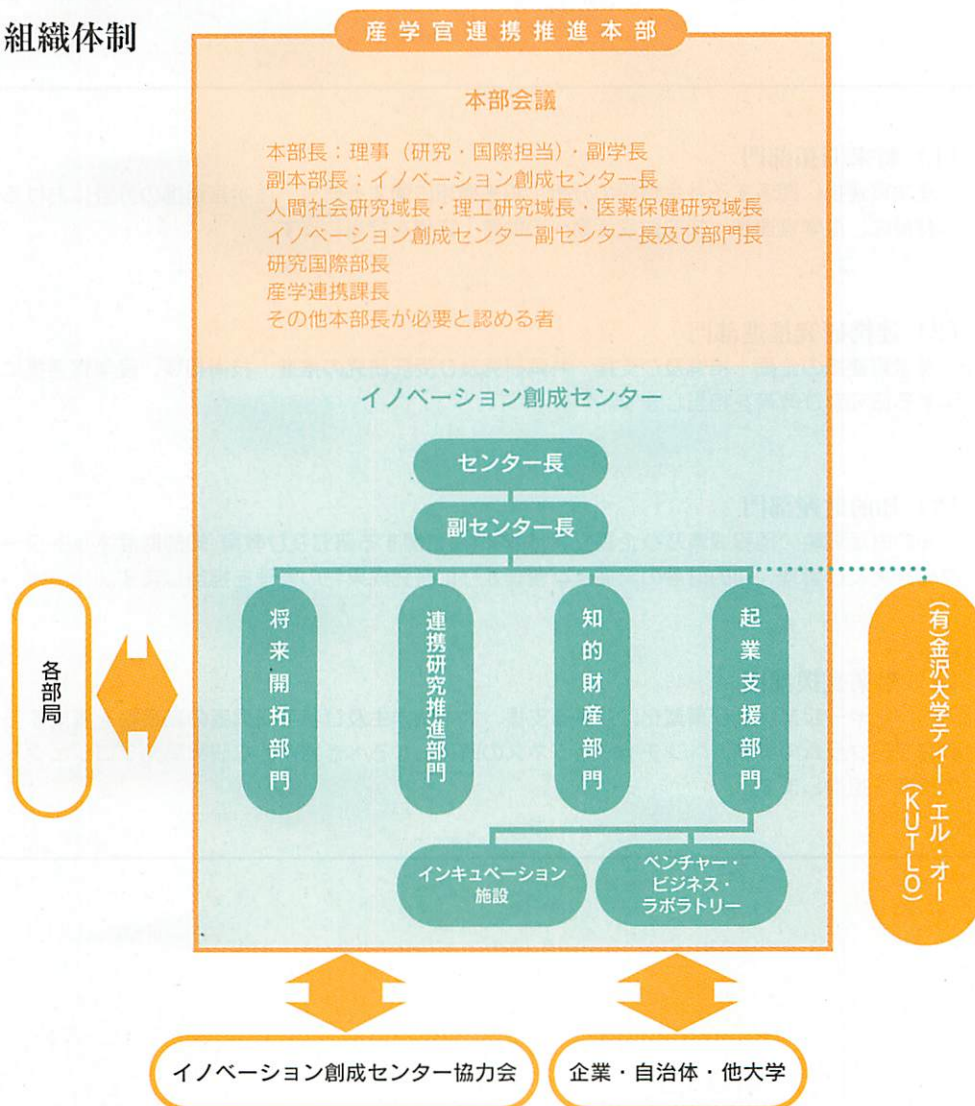
産学官連携推進本部及び イノベーション創成センターについて

産学官連携推進本部

金沢大学は、産学官連携・知的財産活動を本学の重要な使命の一つとしてとらえ、知的資源を活用した産学官連携による社会貢献及び研究の活性化を戦略的に推進することを目的として、副学長（研究・国際担当）を本部長とする産学官連携推進本部を平成20年4月1日から設置しました。

産学官連携推進本部は、産学官連携及び知的財産活動を推進するための戦略を立案し、関連組織との連携・調整を行います。

組織体制



イノベーション創成センター

イノベーション創成センターは、金沢大学の産学官連携・知的財産活動の中核の組織として、平成20年4月1日から設置されました。イノベーション創成センターは、平成19年度までの共同研究センター、知的財産本部、インキュベーション施設及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合し、新たに4部門（将来開拓部門、連携研究推進部門、知的財産部門、起業支援部門）となっています。イノベーションの創成が果たす社会的貢献の意義を重要視し、より一層の産学官連携・知的財産活動による研究成果の社会還元及び教育研究の活性化を推進することを目的としています。

同センターは、イノベーション創出のプラン・体制を構築する将来開拓部門、イノベーション創出を加速する研究活動を推進する連携研究推進部門、イノベーション成長の戦略を固める知的財産部門、そしてイノベーション成長を飛躍させるための起業化を支援する起業支援部門の4部門から成っており、プロデュース機能である「イノベーションの創出」とコーディネート機能である「イノベーションの成長」が有機的に発揮される組織となっています。

イノベーション創成センターは、産学官連携推進の学内外の窓口として、将来開拓部門、連携研究推進部門、知的財産部門及び起業支援部門の4部門で構成されており、各部門の機能は、次のとおりです。

(1) 将来開拓部門

産学官連携に関係する社会情報の分析、将来構想に関する研究、産学官連携の分野における人材育成、産学官連携・知的財産活動への助言・評価を担当します。

(2) 連携研究推進部門

産学官連携の企画・推進及び支援、共同研究及び受託研究の推進、技術相談、産学官連携に関する研究及び教育を担当します。

(3) 知的財産部門

知的財産戦略の情報収集及び企画立案、知的財産に関する研究及び教育、知的財産ネットワークの充実及び管理、知的財産の発掘及び管理並びに研究成果物の管理を担当します。

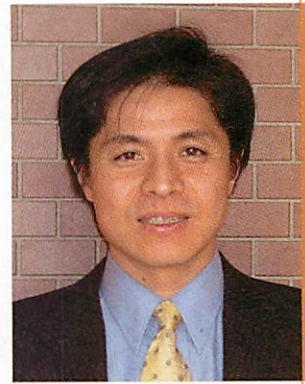
(4) 起業支援部門

ベンチャー起業化及び事業化に対する支援、大学院学生及び若手研究者の創造性を養成する教育プログラムの実施、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発プロジェクトの推進を担当します。

部門長

大友 信秀

人間社会研究域 法学系 教授



4月より大学と地域の将来開拓を担う将来開拓部門を任されることになりましたが、具体的な作業計画は、部門を動かしながら拡大させていく予定です。将来開拓部門は、センターの基盤となる業務をすべてやれるだけやるところに位置づけられています。これまで理系、とりわけ工学系に偏りがちであった産学官連携を文系にまで幅を広げ、産については地元の資源をくまなく汲み取る作業にとりかかります。「将来開拓部門から来ました！」という声をお届けします。研究室や事務所のドアを大きく開けて待っててください。

Department of Future Planning

将来開拓部門

産学官連携に関係する社会情報の分析、将来構想に関する研究、産学官連携の分野における人材育成、産学官連携・知的財産活動への助言・評価を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

■ 飛行機利用

羽田-小松 1日11往復/1時間

※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。

■ JR利用

東京-金沢 上越新幹線、はくたか (ほくほく線経由)/約4時間10分

上野-金沢 環台特急北陸 夜行急行能登(運行日程あり) /8時間

■ 高速バス利用

東京-金沢 1日10往復/7時間30分

※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

■ JR利用

大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥 /約2時間30分

■ 高速バス利用

大阪-金沢 1日5往復/約5時間

京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

■ JR利用

名古屋-金沢 特急しらさぎ/3時間

名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらさぎ /2時間28分

■ 高速バス利用

名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

<金沢駅から>

■ 北陸鉄道バス利用

金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97 34~37分

金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel. 076-264-6111

Fax. 076-234-4019

innov@ad.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

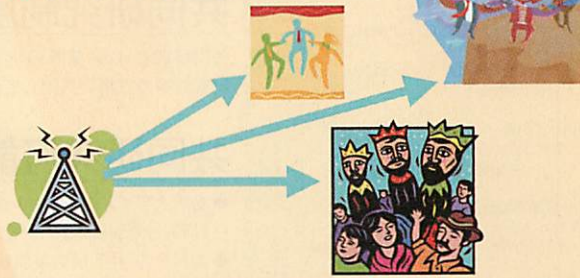
将来開拓部門は、センター他部門 (連携研究推進部門、知的財産部門、起業支援部門) への橋渡し役です。

将来に向け、大学発・地域発の事業活動を発掘・育成

科学技術にとどまらず、事業化可能な資源を学内外から発掘し、育成します。

他部門への連絡を行うセンターの窓口になります。

- 1 権利取得可能なものは知的財産部門へ
- 2 共同研究で発展させるものは連携研究推進部門へ
- 3 事業化が可能なものは起業支援部門へ



将来開拓部門の業務内容

- 1 学内資源の把握・発掘
 1. 学内研究室を訪問し、研究者の得意領域を把握
 2. 専門領域・関心課題のデータベースを整備
- 2 地域資源の把握・発掘
 1. 学外の企業、地域団体を訪問し、活動を把握
 2. 得意分野・苦手分野の情報整理
- 3 学内・地域資源の試験的運用・事業化 (パイロット・プロジェクトの運用)
 1. 能登野菜のブランド展開
 2. 加賀百万石の歴史を生かした観光プログラム・社会科教育プログラム
 3. 大学発音楽イベントによる文化資源活用策の提案

将来開拓部門を窓口とした情報提供を広く受け付けます。



部門長
渡辺 良成
教授

私は2005年4月に(旧)共同研究センターの教員に着任し、このほど、連携研究推進部門長を拝命しました。専門は生化学、分子細胞生物学です。大学およびバイオベンチャーでの研究と、製薬会社創薬研究部門での研究統括の経験を生かし、産学双方の立場・視点を理解し対話を基点に産学官連携の推進に努めます。本部門は、前センターの中核業務を引き継ぎつつも、企業での研究開発成功体験を持つ専属のコーディネータと経験豊富なスタッフとチームを組んで新しい体制の中、変革をしております。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

Department of Joint Research

連携研究推進部門

産学官連携の企画・推進及び支援、共同研究及び受託研究の推進、技術相談、産学官連携に関する研究及び教育を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

- 飛行機利用
羽田-小松 1日11往復/1時間
※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。
- JR利用
東京-金沢 上越新幹線、はくたか(はくほく線経由)/約4時間10分
上野-金沢 寝台特急北陸 夜行急行能登(運行日程あり)/8時間

- 高速バス利用
東京-金沢 1日10往復/7時間30分
※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

- JR利用
大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥 /約2時間30分
- 高速バス利用
大阪-金沢 1日5往復/約5時間
京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

- JR利用
名古屋-金沢 特急しらさぎ/3時間
名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらさぎ/2時間28分
- 高速バス利用
名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

<金沢駅から>

- 北陸鉄道バス利用
金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97 34~37分

金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
Tel. 076-264-6111
Fax. 076-234-4019
innov@ad.kanazawa-u.ac.jp
www.innov.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学は、**産学官**が共通の課題について**連携**することで、より**卓越**した**研究成果**を生み出します。

本部門の業務内容例

- 1 民間企業・機関等との共同研究、受託研究のコーディネーション・マッチング活動による推進
- 2 総合大学の特性を生かし研究開発に関わる多分野の技術相談、技術アドバイスに適した教員の紹介
- 3 競争的研究資金・民間資金を用いた公募産学官共同研究プロジェクト等の情報提供と申請書作成支援活動
- 4 ニュースレター、ホームページ、地域の産学官関連イベント等による共同研究成果、シーズ等の広報
- 5 教員による企業・研究所訪問、企業による学内での説明会開催など双方向コミュニケーションの場形成

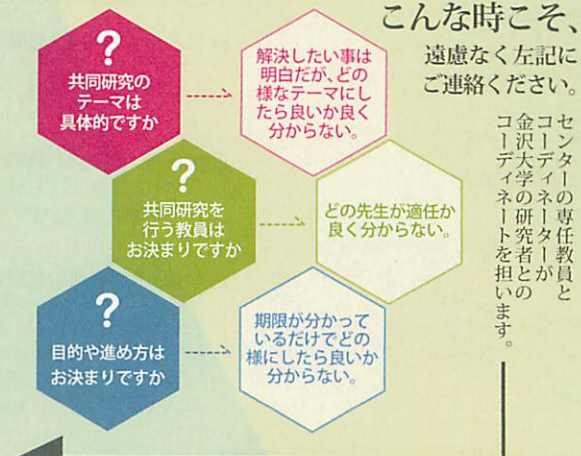
共同研究制度について

共同研究とは、企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について対等の立場で共同して研究を行う制度です。

共同研究可能テーマの探し方

- ◆ 金沢大学イノベーション創成センターHPの「金沢大学教員総覧」より『研究分野別検索』・『キーワード検索』をしてみましょう。
- ◆ 同HPの「共同研究実施状況」より『キーワード検索』や、『年度別一覧』で、これまでの共同研究実施例を見ることができます。

共同研究のすすめ方



部門長
分 部 博
 准教授



知的財産部門を担当させて頂く分部と申します。大学の使命である社会貢献を担うイノベーション創成センターの中で、知的財産部門は、大学の知財戦略の企画・立案、知財の発掘・活用を行う部門です。大学知財の本来の姿は、ロイヤリティ収入を得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段となるべきと思っています。このため、私は大学の敷居をなくし、企業と大学間の関係を密にして、大学知財における本来の姿の実現に邁進したいと思っています。

Department of Intellectual Property

知的財産部門

知的財産戦略の情報収集及び企画立案、知的財産に関する研究及び教育、知的財産ネットワークの充実及び管理、知的財産の発掘及び管理並びに研究成果物の管理を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

- 飛行機利用
羽田-小松 1日11往復/1時間
※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。
- JR利用
東京-金沢 上越新幹線、はくたか (ほくほく線経由) / 約4時間10分
上野-金沢 豊台特急北陸 夜行急行能登 (運行日程あり) / 8時間

- 高速バス利用
東京-金沢 1日10往復/7時間30分
※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

- JR利用
大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥 / 約2時間30分
- 高速バス利用
大阪-金沢 1日5往復/約5時間
京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

- JR利用
名古屋-金沢 特急しらさぎ/3時間
名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらさぎ / 2時間28分
- 高速バス利用
名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

- <金沢駅から>
- 北陸鉄道バス利用
金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97 34~37分

金沢大学イノベーション創成センター
 〒920-1192 石川県金沢市角間町
 Tel. 076-264-6111
 Fax. 076-234-4019
 innov@ad.kanazawa-u.ac.jp
 www.innov.kanazawa-u.ac.jp

「知の創出、保護、活用、研究への還元」の

「知的創造サイクル」の一翼を担う、
 これが**大学の知的財産権**です。

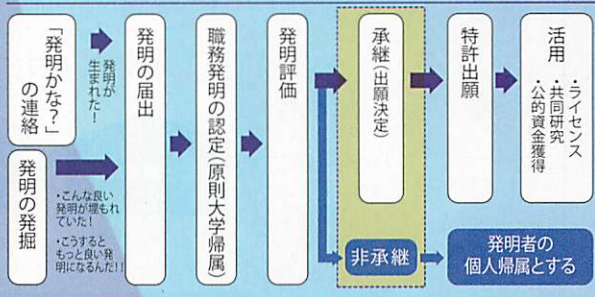
大学の成果により社会貢献を果すために

大学の知的財産権は、ロイヤリティ収入を得るのではなく、大学の成果が社会で最大限活用されるための手段として活用されます。

知的財産権の扱い

- 権利の帰属は？
適切な保護、活用を図るため、知的財産権は原則大学帰属としています。
- 発明管理はどうするの？
・職務発明規程に基づき、職務発明の認定を行い、出願するときは、発明者から権利を大学に譲渡して頂きます。
・研究成果を適切に保護するため、論文発表前に出願するように務めて頂きます。
- 活用はどうするの？
知的財産権が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転による活用を図ります。
- 発明者へのインセンティブは？
発明の促進、研究意欲の向上を図るため、出願が登録された時、ライセンスや譲渡により収入があった時、発明者に報奨金が支払われます。
- ベンチャーへの配慮は？
発明者が大学の知的財産権を活用して起業する場合、知的財産権の使用に優遇措置を行います。

発明の発生から活用まで



発明届出・特許出願件数





部門長

瀧本 昭

(イノベーション創成センター副センター長)
理工研究域工学系 教授

起業支援部門では、VBLとインキュベーション施設の管理運営の一元化と、自然科学研究科・社会環境科学研究科そして医学研究科の大学共有スペースとして配備されたエクスプローララボの活性化とともに、本センターの将来開拓・連携研究推進・知的財産の各部門との協力体制のもとでさらに本学の研究成果の社会還元を推進してまいりますので、より一層のご理解ご協力ご支援のほどお願いします。

Department of Entrepreneur Promotion

起業支援部門

ベンチャー起業化及び事業化に対する支援、大学院及び若手研究者の創造性を養成する教育プログラムの実施、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発プロジェクトの推進を担当します。

県外からのアクセス

- <東京方面から>
 - 飛行機利用
羽田-小松 1日11往復 / 1時間
※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。
 - JR利用
東京-金沢 上越新幹線、はくたか(はくほく線経由) / 約4時間10分
上野-金沢 寝台特急北陸 夜行急行能登(運行日程あり) / 8時間
 - 高速バス利用
東京-金沢 1日10往復 / 7時間30分
※横浜発、八王子発あり
- <大阪・京都方面から>
 - JR利用
大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥 / 約2時間30分
 - 高速バス利用
大阪-金沢 1日5往復 / 約5時間
京都-金沢 1日4往復 / 4時間
- <名古屋方面から>
 - JR利用
名古屋-金沢 特急しらさぎ / 3時間
名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらさぎ / 2時間28分
 - 高速バス利用
名古屋-金沢 1日10往復 / 4時間

県内からのアクセス

- <金沢駅から>
 - 北陸鉄道バス利用
金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97 34~37分

金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
Tel. 076-264-6111
Fax. 076-234-4019
innov@ad.kanazawa-u.ac.jp
www.innov.kanazawa-u.ac.jp
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
Tel. 076-234-6842
Fax. 076-234-6844
kvbl@nst.kanazawa-u.ac.jp

サイエンスプッシュ型のイノベーションの創成と起業家精神の醸成

大学発ベンチャービジネスの支援

コーディネーター、外部専門家の協力のもと金沢大学の理工学技術・医薬保健学技術(農学)+人間社会学技術を結集したベンチャービジネスへの支援

- ◆ 大学院生、若手研究者起業ベンチャー
- ◆ 教員起業ベンチャー
- ◆ 企業と大学連携ベンチャーなど



イノベーションの創出

近い将来、起業化が見込まれる教員プロジェクト研究の募集と選考、研究員の採用、研究費補助、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL)施設・設備の使用など、また、大学院生による起業化が期待される研究テーマの募集選考と研究費補助など、イノベーション創出の芽を育成し、起業化されたベンチャーへのインキュベーション施設の利活用とマネジメント支援を行います。

- 1 生体機能システム: 医療・バイオ関連と生体機能解析・介助に関する研究開発
- 2 環境保全技術: 水や土壌、自然環境の汚染の解析と微生物による汚染浄化、地震などの災害による環境破壊の解明と予防処置、及び複雑系の計算機シミュレーション

イノベーションの流れ



起業家のための教育体制

学生への起業家精神の醸成のために、ベンチャービジネスに関わる講義・演習、ビジネスプランコンテスト、さらに講演会・講習会、セミナーなどの実施、人材育成と自立型・継続的な地域発展への貢献のための国内外・地域自治体のコーディネーター・イノベーション創成センター協力会企業そして本学産学官連携に関わる教職員や金沢大学TLOなどによる大学院生を対象としたMOT(技術経営)教育や講演会などを実施。

起業支援部門

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー



ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー施設は、起業家を目指す学生の教育を目的とした学内共同利用研究教育施設として、平成16年4月に設立され、同年6月より本格運用されております。

人間・環境システムの解析・設計技術の研究開発をテーマに、ベンチャー化を目指す研究プロジェクトを募集し、研究・教育を支援しています。学生を対象とした研究指導やセミナーを通してのベンチャーマインドの高揚、大学で行われている研究の起業化へ向けての具体的なアドバイスを（有）金沢大学ティ・エル・オー（KUTLO）と連携して行っております。

施設としては、3～5階に研究室、相談室、セミナー室を設け、随時プロジェクトを募集しております（1～2階は工学部の先端材料科学ラボラトリーです）。3階に「相談室」、5階に「院生研究室」と、打ち合わせやセミナーに使用できる部屋もあります。



研究室



相談室



院生研究室

従来からの博士研究員数名に加え、平成19年度から特任教授として（有）金沢大学ティ・エル・オー認定第1号企業の代表取締役池田穂高先生、元共同研究センター教授で企業での経験も豊富な瀬領浩一先生（P.13-14のセンター特任教授紹介をご覧ください）を迎え、セミナーやインターンシップを強化し、より学生の教育に重点をおきました。

本年度からイノベーション創成センターの起業支援部門となり、また、特任教授としてベンチャー起業支援経験の豊富な志岐弘之先生を迎えたことにより、VBLで教育・支援を受けた学生がインキュベーション施設で起業し、自立できるようイノベーション創成センター協会のKUTLOと連携して地域発展の貢献を目指します。

起業支援部門

インキュベーション施設



(左) インキュベーション施設
(右) イノベーション創成センター

インキュベーション施設は、大学におけるインキュベーション機能の強化を目的に、学内共同利用施設として、平成14年に設置されました。金沢大学の研究成果や人的資源を活用して、ベンチャー企業を起こそうとする方、あるいは起こされた企業に対し実用化研究の場を提供し、支援を行います。平成15年4月より本格稼働しており、現在プロジェクト開発室には、大学発ベンチャー企業4社が活動しております。

施設1Fには、各種イベントや講義に利用可能な、セミナー室と会議室も完備され、随時利用可能です。また、展示・交流スペースは、パネル展示、各種刊行物などによりセンターの事業紹介や研究紹介を行っており、セミナー終了後の交流の場や、打合せスペースとしても利用可能ですので、是非ご利用ください。



セミナー室：60名収容



会議室：20名収容



展示・交流スペース

利用申込

プロジェクト開発室

随時募集しております。(ただし、全室使用している場合は、使用責任者へ継続確認後〔3年を限度〕、年度末に募集通知いたします。所定の申込書により申請可能。)

詳しい、仕様や使用料等については事務室まで、お問合せください。

セミナー室・会議室

1) 空き状況の確認と仮予約

利用申込は、先着順受付となっておりますので、空き状況の確認をイノベーション創成センター事務室へお電話またはE-Mailにてお問合せください。

(事務室 TEL：076-264-6111 E-Mail：innov@ad.kanazawa-u.ac.jp)

2) 所定の利用申込書を提出し、予約が確定します。(利用申込書は、事務室にございます。)

センター特任教授・助教紹介



いけだ ほだか
池田 穂高

特任教授
(株式会社ソフィア 代表取締役)

池田穂高(株式会社ソフィア・代表取締役)は、金沢大学イノベーション創成センターの特任教授を仰せつかり、金沢大学が所有する研究シーズの事業化支援や起業方法論の確立などを通じて、大学への利益還元について新たな枠組みの提案を続けています。ソフィアは、金沢大学TLOより技術移転を受け、平成14年に事業化した金沢大学発ベンチャー企業で、金沢大学理学部の佐藤努助教(現・北海道大学工学部准教授)が解明した、ヒ素を吸着する特性を持つ「シュベルトマナイト」と呼ばれる鉱物の性質を生かして汚染土壌や水の浄化を手がけ、成長を続けています。

平成19年度より、起業支援部門(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)の支援のもと、金沢大学が所有する研究シーズ調査を行い、平成20年4月には、ソフィアの起業ノウハウを生かして、医薬保健学域が所有する研究シーズの起業(株式会社プロステック:高抗菌性金属製品の製造販売)にも成功しています。大学発ベンチャー起業には、世界に通じる高い技術力が求められますが、それと同等に「経営力や営業力」も必要とされます。その為、大学の学部学生~院生、若手研究者を対象に、インターンシップの実施や資格取得セミナーの開催なども行い、起業に役立つ知識の習得や実践力の強化にも力を注いでいます。

今後も、地元企業やベンチャー・キャピタルとの連携などを通じて、金沢大学ならびに北陸地域の経済活性につながる活動を続けて参ります。



せりょう こういち
瀬領 浩一

特任教授

出口指向の全体視点

ありがたいことに、このたび特任教授を拝命いただきました。最近、各種の調査によれば、世界経済に対する日本国の貢献度が下がっています。当センターの設立目的の一つも、大学の知を産業の国際競争力強化に役立つことではないかと理解しております。私も、営業を中心とした、企業での経験を生かし少しでもお役に立てればと思つて頑張つています。

大学の中で、顧客企業とともに世界の産業発展に役立つような活動を行えば面白いし、当センターが自活できる部門(事業部のようなもの)になればと思っています。この部門に属する人は、研究・試験・提案・相談をベースに企業の利益を増大させ、その利益を企業と山分けすることにより、生活していくことを夢見ています。この形なら、努力すればただけ報われる面白い組織になるような気がします。

いまは、そんな事を夢見て、一つ一つの案件には活動範囲を一回り大きくした視点で絵を描き、出口指向で対応するようにしています。どなたか、面白いアイデア・方法論をお持ちの方、意見の交換をしませんか?



しき ひろゆき
志岐 弘之

特任教授
(有限会社日本ビジネスサポート協議会 代表取締役)

本年8月1日付でイノベーション創成センター特任教授に採用されました。業務内容は、本学の産学官連携体制全体に関する指導、助言、情報収集、分析、提言（特に、起業支援に関する指導、助言、情報収集、分析、提言）を職務として拝命しております。

基本的に毎週火曜日に本学における勤務形態となっております。

これまで、約30年間、全国の2万社程度のベンチャー企業の現場で、創業準備から解散・清算に至るまで経営、財務、法務、営業・販売、知財創出・管理、技術移転、産学官連携、市場調査、プロジェクト管理等のご相談に総合処理型専門家としてコンサルティングを行ってまいりました。中でも大学発ベンチャーについては、経済産業省委託事業実施専門家として多くの主に国立大学法人のベンチャー支援を手がけ、KUTLO（金沢大学ティー・エル・オー）を通じ、本学発ベンチャーも数社ご支援させていただいたところです。また、他の国立大学法人において、大学TLO事業（知財創出・管理・活用）計画策定・実施・進捗管理、産学連携推進及び大学発ベンチャー支援制度設計等を手がけました。

本年度から構想も新たになったイノベーション創成センターでの前記業務を全うできるよう精励し、このことを通じ、わが国で3番目に長い歴史を有し、伝統と総合性を持った本学の教育・研究に続く第3の使命である石川圏域の知の拠点としてのイコール・パートナーシップを持った社会貢献展開に少しでも寄与できるよう懸命に努めるつもりですので、よろしくお願い申し上げます。



ひらこ こうへい
平子 紘平

特任助教

9月1日よりイノベーション戦略支援マネージャーとしてイノベーション創成センターの活動に参加することになりました。

地域のシーズ・ニーズの発掘から具現化、事業化への道筋づくりのお手伝いを大学が積極的に行うためには、これまで産学官連携とは縁のなかった幅広い方々を巻き込んだネットワークの構築が不可欠です。

産学官連携に対する「敷居が高い」というイメージを少しでも払拭し、よりよい産学官ネットワーク構築のため、地域企業の方々、文系理系・学内外を問わず様々な研究者の方々、公的機関の方々など、ひとりでも多くの方のご意見を直接伺いする活動を行ってまいります。「こんなことができる人や組織を探してほしい!」と思われた際には、076-264-6091（平子）まで是非ご一報ください。呼ばれなくても伺いすることもありますが、よろしくお願い申し上げます。

客員教員紹介

平成20年度 客員教員一覧

任期：平成20年4月1日～平成21年3月31日

飯島 泰裕

青山学院大学 社会情報学部
大学院社会情報学研究科 教授

奥野 信男

丸文通商株式会社営業支援グループ 担当部長

斯波久二雄

株式会社BM総研 吹田事務所長

多喜 義彦

システムインテグレーション株式会社
代表取締役社長

中井 純

株式会社アットワイヤレス 代表取締役社長

平野 武嗣

文部科学省産学官連携コーディネーター

(50音順、敬称略)



飯島 泰裕

青山学院大学 社会情報学部
大学院社会情報学研究科 教授

専門分野

情報社会論、情報科学、情報政策、ベンチャービジネス論

大学院修了後、(株)富士通、富士通研究所(株)で人工知能、マルチメディアの研究開発を約10年行い、次世代エキスパートシステムの開発や、世界初のマルチメディアパソコンの研究開発、また、それらのアプリケーション拡大のための研究開発を進めてきました。その後、金沢大学経済学部で情報通信技術（ICT）をもとにしたビジネスや社会システムの研究を約15年してまいりました。この間に学生に情報関連ビジネスの重要さと面白さを伝えるとともに、金沢市、石川県、総務省、経済産業省など行政の皆さんや、産業界や住民の皆さんと共同して北陸の情報化を進めてまいりました。

母校である青山学院大学に社会情報学部および大学院を新設することになり、2008年4月より青山学院大学の所属となりました。ただ、まだ北陸との縁は深く、玉川こども図書館や金沢まちづくり市民研究機構などで、月に2回程度は金沢へお伺いしております。ICTで、住みやすい活気ある街づくりや社会づくり、そして画期的なビジネスの開発などを、知恵や経験、人脈を通じてお手伝いしたいと思っております。是非、お気軽にご相談ください。



おくの のぶお
奥野 信男

丸文通商株式会社 金沢支店
営業支援グループ 担当部長

専門分野

産学官連携および事業化支援、レーザ、分析装置

金沢大学における産学官連携支援活動も早や4年目を迎えることとなりました。その間を振り返りますと、小額の競争資金獲得についてはそれなりの成果かと考えております。

ただ、経済産業省（NEDO含む）・文部科学省（JST含む）などの施策である、大型プロジェクトへの支援活動が不足していました。

過去に築いた人脈と企業情報の分析を基に、金沢大学内でのシーズの掘り起こし、実用化・事業化に向けた目利きと助言、および適切な競争的資金の調査と提案など、一層の活動強化を行う所存です。

一方、来年度概算要求などを分析しますと以下のキーワードが感じられます。中身として、①人材育成、②若手研究者支援、③地域資源、④中小企業の文字が各省庁とも目立ちます。また、新たに省庁連携の強化についても新規施策が計画されるようです。

流れに乗り遅れないよう、公募内容の分析と検討を行うとともに、機を逃さない意見具申を行っていきます。



しば くにお
斯波 久二雄

株式会社BM総研
吹田事務所長

専門分野

バイオ分野の技術シーズ発掘・技術評価、遺伝子治療、医薬品開発、農業開発、薬物体内動態、放射性医薬品、分析化学

大学院では、分析化学（磁気共鳴およびバイオセンサー）を専攻し、住友化学に入社後、長らく医薬品と農業の登録申請に必要な薬物体内動態研究などに従事しておりました。その後、渡米し、ケースウエスタンリザーブ大学を経由して同地の遺伝子治療ベンチャー企業に入社、上級研究員として米国バイオベンチャー企業を内側から直接体験する機会に恵まれました。

帰国後、日本政策投資銀行系のビー・エイチ・ピー社、また、現在のBM総研では、大学・国立研究機関等の技術シーズの発掘、技術評価、事業性評価、ビジネスプラン策定支援およびコンサルティングなどを行い、数社のバイオベンチャー立ち上げ支援に参画しました。

このような知識と経験をベースにして金沢大学の産学連携活動に少しでもお役に立てればと考えております。バイオベンチャーを取り巻く環境は非常に厳しいものがありますが、ベンチャーを起業される皆様にアメリカンドリームを実現した米国バイオベンチャー企業CEOの言葉を贈ります。

Work hard ! Have fun ! Make money !

客員教員紹介



たき よしひこ
多喜 義彦

システムインテグレーション株式会社
代表取締役社長

専門分野

開発支援、知的財産、特許、技術移転

現在、我が国の中小企業は、今まさに、「新たなパラダイム（規範）」を求めています。その新たなパラダイムとは知的財産です。そして、中小企業だけでなく、流通や小売、そしてサービス業など、従来は知財に関心が無かった業種でも、知財が重要な経営要素であることに、多くの経営者が気づき始めました。我が国の企業にとって、コスト、品質、納期など、従来の競争力は急速に衰えています。知的財産権は今や国際的な共通ルールとなりつつあり、唯一、国境や思想信条を超えた、侵すことのできない明白なパラダイムとなっているからです。このような知財経営を目指す経営者に対して、知的財産における意識の啓蒙や、知財活用のための戦略的かつ具体的な事例を挙げて企業とともに歩んでいくのが私の使命です。



なかい じゅん
中井 純

株式会社アットワイヤレス 代表取締役社長

専門分野

半導体、モバイル、通信、光通信、ディスプレイ、ベンチャー経営

大学では半導体を専攻しましたが、ソニーにてゼロからのCD開発に従事。その後MITで光通信の分野で博士号取得。ソニーに戻って、デジタルオーディオ、カーナビ、衛星通信や人工知能を手掛けました。

ビジネス経験を積むためにソニーを飛び出して、外資系とベンチャーで常に産業のデジタル化の最前線で仕事をしてきました。

ソニーでデジタル家電。ノーテルネットワークで通信、その後、シリコンバレーのシステム半導体メーカーの日本法人社長として、PC、セットトップボックス、PHS用のチップセットを開発・販売しました。

シーメンスでIPネットワーク、そしてベンチャーの日本通信でモバイルのブロードバンドサービスを立ち上げました。

その後、超高速プロセッサ開発ベンチャー、アイビーフレックスの社長として会社再建を成功させました。

今は、通信に戻り、モバイル通信ベンチャーである(株)アットワイヤレスで新しい通信サービスの創出を手がけています。

今後、IT全般における広範な知識と経営経験を日本のベンチャー育成のために役立てたいと切に願っています。金沢大学の持つ素晴らしいビジネスシーズを起業に結びつける事が客員教授としての夢です。



ひらの たけつぐ
平野 武嗣

文部科学省産学官連携コーディネータ

専門分野

国内海外技術移転・ライセンス契約、TLO 経営、ベンチャー起業支援、ギャップファンド、地域イノベーション創出基盤形成

以前は産業界において国の内外で仕事をしてきた。2002年に金沢大学の産学連携活動に携わるようになった。回りを見回すとこの大学でこの活動をしている人々のうちで一番長くこの業務をしている者になった。このことが日本の産学連携にとって深刻な問題である。企業では10年15年の経験を積まないと課長レベルの仕事はこなす一人前とはいわれない。日本の大学では研究者が入れ替わり産学連携の仕事を仰せつかり頑張っているが数年でまた研究に戻るといった形態が殆どであった。しかし金沢大学では今年から所謂「専従」でこの業務をする人の数を増やした。しかし、いま30歳代のスタッフがこの仕事を10年以上続け、各種の経験を積み本当の「プロフェッショナル」となったときに日本の産学連携、最終目的の技術移転が本物になるのではないかと。当センターやKUTLOなどにいる若手の育成に心がけている。大成長を期待している。そのための人事体制の整備などを文部科学省産学連携コーディネーター間で協議し答申しようとしている。

産学官地域アドバイザー紹介

平成20年度 産学官地域 アドバイザー一覧

栗井 憲之

小松市 経済環境部 商工振興課 課長

飯塚 伸之

日本政策投資銀行 北陸支店
企画調査課 副調査役

大江 聡

株式会社北國銀行 営業統括部
法人営業課 課長代理

奥野 信男

丸文通商株式会社 営業支援グループ 担当部長

小石 芳一

株式会社北陸銀行支店部 石川地区駐在 副部長

小木 茂

金沢市 産業局 ものづくり政策課 主査

酒井 正二

財団法人石川県産業創出支援機構
プロジェクト推進部 部長

笹倉 利通

野村證券株式会社 金沢支店 次長兼企業金融課長

水口由紀夫

富木医療器株式会社 科学機器営業部 部長

村上 和幸

金沢信用金庫 常務理事 業務推進部門担当
兼 業務開発部長

(50音順、敬称略)



あわい のりゆき
栗井 憲之

小松市
経済環境部
商工振興課
課長

商工振興課には通算で7年目となります。主に企業誘致、産業振興を担当してきました。金沢大学様とは、平成14年から小松市の産業振興策についてのご指導ご助言をいただいております。今回の産学官地域アドバイザー就任を機会に、さらに連携を深めたいと思います。小松市には鉄工関連以外にも独自技術を持つ優良中小企業者も多く、産学官連携によって、新産業・新技術を創出し、「ものづくりのまち」の推進に努めたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。



いいつか のぶゆき
飯塚 伸之

日本政策投資銀行
北陸支店
企画調査課
副調査役

当行北陸支店に着任して3年目になり、北陸地域への愛着と産業振興への思いを日々深めております。

『産業振興』には産業基盤の強化が不可欠であり、産業基盤を強化するためには、産学官連携による新たなシナジーの創出が重要と考えます。この度、産学官地域アドバイザー就任のお話を頂きました。北陸から発信される技術、学術による産業の振興と、この産業創出による北陸地域、日本、世界の経済社会の活力向上のために尽力させて頂きたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

産学官地域アドバイザー紹介



おおえ さとし
大江 聡

株式会社北國銀行
営業統括部
法人営業課
課長代理



おくの のぶお
奥野 信男

丸文通商株式会社
金沢支店
営業支援グループ
担当部長

地元企業の経営課題解決を図り、産学官連携により技術相談や有効な経営情報の提供を行うことで地元企業・地元経済を活性化していくことは、『地元の銀行』の使命であります。

金沢大学のシーズと地元企業のニーズの架け橋となり、人と人とのつながりを大切に信頼関係を構築することが大切だと考え、一所懸命「産学官地域アドバイザー」を務めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(P.16の客員教員紹介をご覧ください)



こいし よしかず
小石 芳一

株式会社北陸銀行
支店部
石川地区駐在
副部長



こぎ しげる
小木 茂

金沢市
産業局
ものづくり政策課
主査

石川県の勤務も、七尾支店、小松支店、野々市支店、今度の金沢支店と4度目になります。

また、生まれ故郷の石川県で働けることを嬉しく感じております。今回、「産学官地域アドバイザー」を拝命し、産学官連携という新たなる任務に着けることに、更なる喜びと重責を感じております。何分微力ではございますが、皆様とご一緒に一生懸命努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

金沢市は、今年度「ものづくりでまちを元気にする」ことを重点施策に掲げております。ものづくり産業の基盤強化が大きな課題となっておりますが、その中で、産学官連携による各々の技術、学術、施策の融合が重要な役割を果たすと考えております。

大学と企業の垣根をなくし、共同研究や技術提携が行われやすい環境づくりに精一杯努めてまいりますので、どうかよろしく願い申し上げます。

産学官地域アドバイザー紹介



さかい しょうじ
酒井 正二

財団法人
石川県産業創出支援機構
プロジェクト推進部
部長

石川県産業創出支援機構（ISICO）プロジェクト推進部2年目。県内中小企業を含めた産学官連携を通しての研究開発の支援のため、①ご用聞き企業訪問②県内大学・金融機関とのコラボなど「2年目の挑戦」を発信中。クイックレスポンスとワンストップサービスそして193cm（身長）は継続中。

「たのしみは 朝おきいでて 昨日まで
無かりし花の 咲ける見る時」（橘 曙覧）



ささくら としみち
笹倉 利通

野村證券株式会社
金沢支店
次長兼企業金融課長

私にできることは限られておりますが、このご縁を大切に、野村證券グループの機能をいかに引き出してお役にたてるか努力する所存でございます。大学で創出された知的財産が全国の企業で有効活用されるよう「野村イノベーションクラブ」のサイトを公開しております。既に、金沢大学からのシーズも掲載されております。是非活用いただければと存じます。



みずぐち ゆきお
水口由紀夫

富木医療器株式会社
科学機器営業部
部長

医療関係の営業で培った経験、知識を生かして今後の大学の活性化、地域の活性化、また新たな物づくりに少しでもお役に立てることが出来るよう皆様方と一緒に一生懸命努めたいと思っております。
何卒、よろしくお願いいたします。



むらかみ かずゆき
村上 和幸

金沢信用金庫
常務理事
業務推進部門担当
兼 業務開発部長

金融マンとしてこれまでの経験と知識を活かし、地域産業の活性化と私どもの主力取引である中小企業の総合的な事業支援の推進を図っていきたく、今回「産学官地域アドバイザー」を拝命し、これを機会に大学のシーズと企業ニーズを繋ぐ窓口としてアドバイザー活動を積極的に展開して行こうと考えております。

平成19年度 共同研究一覧

192件

(各部署の50音順)

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
アフガニスタン・バーミヤーン遺跡出土陶器の研究	文学部	教授	佐々木達夫
回転電機軸材の疲労測定法の研究	教育学部	教授	佐々木敏彦
ピストンロッドの応力評価	教育学部	教授	佐々木敏彦
肝疾患患者におけるプロテカジン血中動態の臨床的検討	大学院医学系研究科	教授	金子 周一
メタボリックチップの開発	大学院医学系研究科	教授	金子 周一
微小電極チップを使用したがんの診断システム	大学院医学系研究科	教授	金子 周一
非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）肝発癌モデルに対するNIK-333の抗腫瘍効果の検討	大学院医学系研究科	教授	金子 周一
不死化子宮内膜細胞を用いたプロゲステロン・ジェノゲストの薬理作用の検討	大学院医学系研究科	講師	京 哲
小児急性リンパ性白血病の同種造血幹細胞移植におけるGVHDとサイトカインの関連の解明	大学院医学系研究科	教授	小泉 晶一
毛髪関連遺伝子の網羅的解析	大学院医学系研究科	教授	西條 清史
医学的に有用な天然物素材の探索ならびに研究開発	大学院医学系研究科	特任教授	鈴木 信孝
過栄養状態の肝臓から分泌される新規インスリン抵抗性惹起・血管新生抑制因子の機能解析	大学院医学系研究科	准教授	篁 俊成
脂質メディエータースフィンゴシン-1-リン酸（SIP）を用いた血管新生・再生医療の開発	大学院医学系研究科	教授	多久和 陽
液体窒素処理骨と人工関節による四肢再建術	大学院医学系研究科	准教授	土屋 弘行
抗菌創外固定の開発	大学院医学系研究科	准教授	土屋 弘行
抗癌剤含有骨セメントの抗腫瘍効果	大学院医学系研究科	准教授	土屋 弘行
新しい創外固定の開発と臨床応用	大学院医学系研究科	准教授	土屋 弘行
液体窒素を使用した再建手術の新しい手術器械開発	大学院医学系研究科	准教授	土屋 弘行
PC上で動作する心筋SPECT画像解析システムの研究開発	大学院医学系研究科	准教授	中嶋 憲一
I-123 MIBG心筋シンチグラフィにおける定量指標の標準化に関する研究	大学院医学系研究科	准教授	中嶋 憲一
嚥下障害を伴う脳血管疾患患者用の栄養食品「やわらか食」の研究	大学院医学系研究科	教授	中村 裕之
好酸球性気道炎症に対するフドステインの作用の検証	大学院医学系研究科	准教授	藤村 政樹

注 1) 教員の所属部署と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	教員所属部局	職名	氏名
腰椎前弯形成器具の開発研究	大学院医学系研究科	教授	藤原 勝夫
細胞保護作用化合物の探索研究	大学院医学系研究科	准教授	堀 修
治験における画像集中読影システムの運用と評価に関する研究	大学院医学系研究科	教授	松井 修
BAY43-9006の第Ⅲ相臨床試験における遠隔画像診断を利用した腫瘍評価システムの構築	大学院医学系研究科	教授	松井 修
フラットパネルX線ディテクターを用いた嚥下運動機能解析に関する研究	大学院医学系研究科	教授	松井 修
ステントグラフト	大学院医学系研究科	教授	松井 修
各種疾患患者の血液中CoQ10濃度に関する研究	大学院医学系研究科	特任教授	馬淵 宏
糖尿病細小血管症に対するフェノフィブラートの効果についての研究	大学院医学系研究科	教授	山本 博
疾患診断用DNAスティックの開発と評価	大学院医学系研究科	教授	山本 博
RNA阻害法による肝毒性メカニズムの検討	大学院医学系研究科	教授	横井 毅
薬物の代謝物生成に関わる代謝酵素の検討	大学院医学系研究科	教授	横井 毅
作業療法技術の实地改良・開発	医学部保健学科	教授	生田 宗博
リハビリテーションにおける作業療法効果	医学部保健学科	教授	生田 宗博
医療用ディスプレイの画像評価に関する研究	医学部保健学科	准教授	市川 勝弘
超高解像度液晶ディスプレイの開発	医学部保健学科	准教授	市川 勝弘
抗菌繊維使用各種商品の抗菌活性研究	医学部保健学科	教授	唐澤 忠宏
腫瘍診断に用いるPET薬剤の開発・評価と製剤化	医学部保健学科	教授	川井 恵一
光イメージング技術の開発	医学部保健学科	教授	川井 恵一
腫瘍診断に用いる新規PET薬剤の開発と評価	医学部保健学科	教授	川井 恵一
インテリジェンス浴室の開発評価研究	医学部保健学科	准教授	関根 克尚
体温連続計測システムに関する研究	医学部保健学科	教授	根本 鉄
深部体温測定方法に関する調査研究	医学部保健学科	教授	根本 鉄

注 1) 教員の所属部局と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成19年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部局	職名	氏名
乳児期早期におけるB.breve投与と食物アレルギー発症との関連	医学部保健学科	教授	谷内江昭宏
非平衡型複数 α 線放出in vivoジェネレーター：227Th-EDTMPを用いた転移性骨腫瘍治療法の開発	医学部保健学科	助教	鷺山 幸信
ペンシル型走査型プローブ顕微鏡の開発	大学院自然科学研究科(理学部)	教授	新井 豊子
高速AFMによる機能性材料の動的解析	大学院自然科学研究科(理学部)	教授	安藤 敏夫
ガラスからの不純物溶出防止のための技術開発	大学院自然科学研究科(理学部)	助教	奥寺 浩樹
超並列アプリケーションの研究	大学院自然科学研究科(理学部)	教授	小俣 正朗
化粧品応用を目指したバイオリソース(酸化酵素)の探索および実用化に関する研究	大学院自然科学研究科(理学部)	教授	櫻井 武
酸素還元酵素の精密構造解析	大学院自然科学研究科(理学部)	教授	櫻井 武
高効率水素液化システムの研究開発	大学院自然科学研究科(理学部)	准教授	松本 宏一
規格外くるみとミクロン粉末技術を利用した新規食品の開発	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	太田 富久
食品類の安全性評価法に関する研究	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	太田 富久
凝集剤・消毒剤・消臭剤に関する安全性及び機能解析に関する研究並び開発	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	太田 富久
マメ科植物種子に由来する健康リスク軽減成分の探索	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	太田 富久
ヒト型トランスポーター遺伝子の新規発現系構築による薬物生体膜透過評価系の創出	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	辻 彰
医薬品開発における重要なトランスポーターの安定発現細胞について	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	辻 彰
化粧品内含有高分子物質の皮膚浸透性に関する研究	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	辻 彰
揮発成分評価技術に関する研究	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	早川 和一
有害ガス発生成成分分析及び熱によるガス分解確認	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	早川 和一
紫外線による表皮細胞のDNA修復機構に関する研究	大学院自然科学研究科(薬学部)	教授	松永 司
新規界面活性剤の毛髪への作用に関する研究	大学院自然科学研究科(工学部)	准教授	浅川 毅
H*TL振子フィーダのモーション最適化	大学院自然科学研究科(工学部)	准教授	浅川 直紀
耐環境性の高い微細形状検査装置の開発	大学院自然科学研究科(工学部)	教授	安達 正明
複合式消波構造物による波浪制御効果に関する研究	大学院自然科学研究科(工学部)	教授	石田 啓

注 1) 教員の所属部局と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成19年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部局	職名	氏名
人工リーフの機能と安全性に関する実験的研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	石田 啓
耐摩耗性向上鋼に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	講師	岩井 智昭
ゴルフボールの衝突特性に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	岩田 佳雄
変調型誘導プラズマを用いたナノ粒子生成における変調効果と電力増強の検討	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	上杉 喜彦
セミドライ切削加工	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	上田 隆司
焼き入れ鋼のCBN高速切削における白層の生成機構	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	上田 隆司
室内浮遊粉塵におけるたばこ煙寄与率評価方法の開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	大谷 吉生
焼結材料の機械的特性に及ぼす組織形態の影響	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	尾田 十八
長坂用水調査研究まとめ	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	北浦 勝
歴史的用水群調査研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	北浦 勝
長坂用水保存管理計画に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	北浦 勝
小電力RF集積回路の研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	北川 章夫
新規不揮発性メモリ小規模アレイ TEG 開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	助教授	北川 章夫
プリンター・複写機・FAX機等の音・振動に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	木綿 隆弘
常用型給水タンクの研究開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	木綿 隆弘
ラジエータ通過風速と冷却効率に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	木綿 隆弘
茶成分の化学的性質に関する基礎的研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	国本 浩喜
浸透性吸水防水材を用いた塩害防止効果に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	久保 善司
吸水性防止材及び透湿性塗材を用いた補修効果に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	久保 善司
粒状吸着材を用いたデシカント除湿空調装置の開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	児玉 昭雄
新型水素PSAプロセスの開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	児玉 昭雄
低温再生用デシカントローターの開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	児玉 昭雄
ロープ用ヤーン結び機の開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	新宅 救徳

注 1) 教員の所属部局と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成19年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部局	職名	氏名
車両前方環境認識に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	講師	菅沼 直樹
雪氷路面の凍結防止対策について	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	関 平和
ヘテロ元素を含む新規不斉配位子の開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	千木 昌人
機能ミスト発生のメカニズム解明及び高効率化に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	瀬戸 章文
スノーMZシステムと他融雪装置との対比による優位性評価	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	瀧本 昭
北陸地方産フライアッシュによるアルカリシリカ反応抑制対策に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	鳥居 和之
低アルカリ性セメント硬化体の間隙構造とイオンの移動に関する研究(Ⅱ)	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	鳥居 和之
磁性体を用いた癌に対する温熱療法	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	長野 勇
推測航法におけるカルマンフィルタに関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	中山 謙二
信号を分離し、選択的に提示する機能を有した遠隔会議システム	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	中山 謙二
推測航法におけるカルマンフィルタ処理に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	中山 謙二
サーボ圧力制御の研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	滑川 徹
スピーカ指向特性の改善に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	西川 清
アレイ・スピーカー、アレイ・マイクロフォンシステムによる指向性制御の研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	西川 清
CO ₂ を利用した高機能脂肪族ポリカーボネート樹脂の開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	新田 晃平
水道管内部洗浄の必要性	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	長谷川 浩
重金属等不溶化技術の実証試験と応用についての研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	長谷川 浩
パワートレイン空転時摩擦損失トルクの軽減	大学院自然科学研究科 (工学部)	助教	長谷川雅人
膜処理によるリネン排水再利用技術の開発とその事業化	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	林 良茂
橋梁を発生源とした低周波音の発生機構に関する数値解析による研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	深田 宰史
イーザーラーメン橋の耐荷力評価に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	深田 宰史
車両走行による橋梁振動を低減させるための装置に関する数値解析による研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	深田 宰史
ポリエチレンネットを用いた防護柵に作用する雪圧の研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	前川 幸次

注 1) 教員の所属部局と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成19年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部局	職名	氏名
連想メモリシステムの低消費電力化に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	松田 吉雄
画像圧縮伸張回路に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	講師	深山 正幸
オキセタン化合物および脂環式エポキシ化合物の混合物系の光硬化に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	元井 正敏
木質バイオマスガス化および副生成物発生の機構解明	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	森 茂
高誘電率誘電体薄膜の評価技術構築・要素技術構築	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	森本 章治
ナノ粒子の合成及び配列制御	大学院自然科学研究科 (工学部)	准教授	山岸 忠明
容積振動型自動血圧計の開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
非侵襲血糖計測法に関する開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
在宅ヘルスケアシステムの研究と開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
非侵襲血圧・動脈硬化度・動静脈酸素飽和度同時計測法の開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
自動健康モニタリングシステムの開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
手首における連続血圧測定法の研究開発	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
在宅ヘルスケアのための浴槽内生体情報計測システムの開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
医療・介護支援のためのベッド内生体情報モニタの開発研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山越 憲一
次世代型ウエハー熱処理用 Hot Plate の開発支援	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山田 敏郎
塗布乾燥シミュレーションの構築	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山田 敏郎
PETの重合触媒研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山田 敏郎
解析による二軸延伸プロセスのフィルムシート挙動把握に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	山田 敏郎
摩擦力、圧力センサーの熱間鍛造への適用に関する研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	米山 猛
最適押し出し技術の研究	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	米山 猛
ターン時の動作および作用力とスキー板の変形に関する測定	大学院自然科学研究科 (工学部)	教授	米山 猛
薬剤耐性関連遺伝子発現がん細胞を用いた抗癌剤感受性の評価	がん研究所	准教授	遠藤 良夫
5-アミノレブリン酸を用いた転移性胃癌の術中診断の開発	がん研究所	准教授	遠藤 良夫

注 1) 教員の所属部局と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成19年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部局	職名	氏名
胃がん自然発症モデルマウスに発症するがんの遺伝子発現プロファイルと、当該モデルマウスの有用性に関する研究	がん研究所	教授	大島 正伸
肺癌症例の腫瘍内葉酸量、正常組織葉酸量と葉酸代謝関連酵素mRNA発現量および遺伝子多型との関連解析	がん研究所	准教授	川上 和之
幹細胞及び癌幹細胞の分離・同定に関する研究	がん研究所	教授	平尾 敦
マウス肺癌移植モデルマウスにおける血中アミノグラム変化のメカニズム検討	がん研究所	教授	矢野 聖二
がんにおけるAMTを用いた臨床試験	医学部附属病院	教授	金子 周一
デジタルマンモグラフィにおける画像観察システムの研究	医学部附属病院	講師	川島 博子
3D OCT-1000を用いた健常者データ収集とソフトウェア開発	医学部附属病院	教授	杉山 和久
3D OCT-1000を用いた緑内障データ収集とソフトウェア開発	医学部附属病院	教授	杉山 和久
ヒト血中サイトカインの高感度一括測定系の検討	医学部附属病院	教授	古川 俣
レビー小体型認知症の周辺症状に対する抑肝散の有用性に関する研究	医学部附属病院	教授	山田 正仁
エリスロポエチン阻害物質の検出とその医学的生物学の意義	医学部附属病院	准教授	和田 隆志
インフォマティクスを用いた分化全能性研究	学際科学実験センター	教授	山口 和男
クローン牛の遺伝子解析	学際科学実験センター	教授	山口 和男
e-Learning教材の作成と普及や販売のための開発研究	総合メディア基盤センター	准教授	佐藤 正英
IT教育技術を用いた生涯学習と地域貢献	総合メディア基盤センター	教授	鈴木 恒雄
熱振動式超小型フローセンサの開発研究	環日本海域環境研究センター	教授	木村 繁男
培養軟骨細胞における確率共振現象の効果	環日本海域環境研究センター	准教授	田中 茂雄
放射性同位元素分析によるズワイガニの年齢評価	環日本海域環境研究センター	助教	濱島 靖典

その他（38件）

注 1) 教員の所属部局と職名は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成20年度 シーズ発掘試験採択一覧

A：発掘型 B：発展型

注) 教員及び担当CDの所属・職名は申請時時点のものです。

No.	課題名	型	代表研究者			担当CD		
			名前	部局・課	役職	氏名	所属	役職
1	非常時に活躍する「電子アーミーナイフ」(e-ARK)の携帯電話等での実装と検証	A	大野 浩之	総合メディア 基盤センター	教授	平野 武嗣	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ
2	誘導熱プラズマによる新・高速 表面窒化処理	A	田中 康規	自然科学研究科	准教授	平野 武嗣	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ
3	生体内磁気ビーズ計測の低侵襲極細 針形磁気センサの測定限界の研究	A	山田 外史	環日本海域環 境研究センター	教授	平野 武嗣	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ
4	立位位置知覚能に焦点を当てた高齢 者向け後方バランス訓練機器の開発	A	藤原 勝夫	医学系研究科	教授	長江 英夫	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ
5	次世代安全運転支援システム開発を 目指した新規運転ストレス評価法の検討	A	山越 健弘	自然科学研究科	特任 准教授	長江 英夫	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ
6	魚類ウロコを用いたがん細胞の骨 転移能簡便スクリーニング法の開発	A	鷲山 幸信	医学系研究科	助教	長江 英夫	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ
7	未活用バイオマスからの硫酸塩還元 微生物による酢酸高速生成法の開発	A	池本 良子	自然科学研究科	教授	奥野 信男	金沢大学共同 研究センター	産学官地域 アドバイザー
8	安全性を最重視した遠隔無線通信 ネットワークロボットの試作開発	A	滑川 徹	自然科学研究科	准教授	奥野 信男	金沢大学共同 研究センター	産学官地域 アドバイザー
9	男性型更年期障害の新規診断技 術の確立	A	東 達也	自然科学研究科	准教授	奥野 信男	金沢大学共同 研究センター	産学官地域 アドバイザー
10	原子分解能を有する液中三次元 イメージング技術の確立	A	福間 剛士	フロンティア サイエンス機構	特任 准教授	奥野 信男	金沢大学共同 研究センター	産学官地域 アドバイザー
11	組換えHGFによる骨折・関節 傷害の再生修復技術の開発	A	松本 邦夫	がん研究所	教授	渡辺 良成	金沢大学共同 研究センター	教授
12	高い展延性を有する金属蒸着 フィルムの開発と応用	A	岩森 暁	自然科学研究科	准教授	分部 博	金沢大学共同 研究センター	准教授
13	局所接触型マイクロ波加熱法を用 いた噴霧生成機構の開発と応用	A	榎本 啓士	自然科学研究科	准教授	分部 博	金沢大学共同 研究センター	准教授
14	音声による難聴者との携帯型コミュ ニケーション支援システムの開発	A	船田 哲男	自然科学研究科	教授	分部 博	金沢大学共同 研究センター	准教授
15	ノイズ電流源分布推定・可視化 システム	A	八木谷 聡	自然科学研究科	准教授	高田 律子	(有)金沢大学 ティ・エル・オー	ライセンス・ アソシエイト
16	画像処理機能を搭載する高速・高解 像度イメージセンサの実証システムの開発	A	秋田 純一	自然科学研究科	准教授	高田 律子	(有)金沢大学 ティ・エル・オー	ライセンス・ アソシエイト
17	世界最高レベルの耐久性を持つ 有機薄膜太陽電池の開発	A	高橋 光信	自然科学研究科	教授	五十嵐泰蔵	(有)金沢大学 ティ・エル・オー	特許流通 アドバイザー
18	動態デジタルレントゲンによる呼 吸・循環機能新規診断システムの開発	B	真田 茂	医学系研究科	教授	長江 英夫	金沢大学共同 研究センター	産学官連携 コーディネータ

金沢大学イノベーション創成センター 協力会入会のご案内

21世紀に臨み、今後とも石川県の産業が持続的に発展していくためには、地域独自の資源を活用しながら、新しい付加価値を創造し、国内外の競争に勝つための産業基盤の確立が急務となっています。

金沢大学共同研究センターは、平成7年に設置され、大学の研究成果を地元産業に還元する産学連携の中心的な役割を果たしてきました。

技術の高度化、新たな商品開発など地元産業界が直面している多くの課題に対処していくためには、金沢大学共同研究センターのリエゾン機能を最大限活用することが大変有効であります。

そこで金沢大学と地域の産業界が地に足のついた産学連携と相互の日常的な交流をいっそう進めていくことをめざした『金沢大学共同研究センター協力会』を設立いたしました。

現在、平成20年4月1日の金沢大学イノベーション創成センターの発足に伴い、その名を『金沢大学イノベーション創成センター協力会』として新たなスタートを切りました。

つきましては、以上の主旨をご理解いただき、本会への入会につきまして、よろしくお願いいたします。

事業内容

1. 産学連携コーディネーターの支援強化
2. 技術アドバイスサービス
3. セミナー・講演会の実施
4. 各種説明会の開催
5. 各種イベントへの参加
6. 企業等への見学、実情視察
7. 刊行物の発行
8. その他

会 員

会員は本会の事業に賛同する法人又は団体等の方々です。

会 費

会費は、年会費一口3万円です。

設 立

平成13年7月

産学コーディネーター

次頁に学内外のコーディネーターを紹介しています。

入会申込方法

金沢大学イノベーション創成センター協力会の主旨に賛同され、入会をご希望される方は、下記事務局までご連絡ください。また、インターネットによるお申し込みも受け付けております。お申し込みが確認でき次第、事務局より内容確認と会費の振り込み方法を郵送または電子メールでご連絡いたします。

金沢大学
イノベーション創成センター
協力会事務局

〒920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学イノベーション創成センター内
Tel 076-264-6111 Fax 076-234-4019
E-Mail innov@ad.kanazawa-u.ac.jp
URL <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/kyouryokukai/>

金沢大学イノベーション創成センター協力会 産学コーディネーターの紹介

(学外) 産学コーディネーター

(50音順・敬称略)

栗津 薫	石川県工業試験場	次長
石原 理	(財) 石川県産業創出支援機構 石川ハイテク・センシング・クラスター	科学技術コーディネーター
梶川政右衛門	(独) 科学技術振興機構JST イノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター
紙本 伸明	(独) 科学技術振興機構JST イノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター
北嶋 正廣	(財) 石川県産業創出支援機構 新規事業支援部経営支援センター	アドバイザー
国岡 由紀	(独) 科学技術振興機構JST イノベーションプラザ石川	コーディネートスタッフ
後藤 裕	文部科学省科学研究振興局	主任学術調査官
新保 善正	(財) 石川県産業創出支援機構	ネットワークコーディネーター
田中 敏夫	(大) 高エネルギー加速器研究機構	施設部長
塚林 和雄	(財) 石川県産業創出支援機構 石川ハイテク・センシング・クラスター	科学技術コーディネーター
土肥 淳一	(社) 石川県鉄工機電協会	専務理事
豊原 菊生	(財) 石川県産業創出支援機構	専務理事
中川 脩一	(財) 石川県産業創出支援機構 知的クラスター創成事業	事業総括
中道 俊久	(独) 科学技術振興機構JST イノベーションプラザ石川	技術参事 科学技術コーディネーター
中村 外男	(株) 石川県IT総合人材育成センター	専務取締役
中藪 俊博	石川県工業試験場	次長
南部修太郎	(株) アセット・ウィッツ	代表取締役
西山 健介	日本政策投資銀行新産業創造部	調査役
廣瀬 幸雄	金沢学院大学知的戦略本部 金沢大学大学院自然科学研究科	本部長 教授 特任教授
本庄 直樹	(社) 石川県繊維協会	専務理事
松村 文夫	金沢市異業種研修会館	館長
三谷 忠興	(独) 科学技術振興機構JST イノベーションプラザ石川	館長
宮下 克己	(社) 石川県建設業協会	専務理事
山下 孝明	石川県工業試験場	場長
渡邊 博佐	(独) 科学技術振興機構JST イノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター
渡辺 元彬	NPO法人 IGN 科学教育研究所	事務局長

金沢大学イノベーション創成センター協力会産学コーディネーターの紹介

(学内) 産学コーディネーター

(50音順・敬称略)

石橋 弘行	医薬保健研究域	(薬学系・学際科学実験センター)	教授
上田 隆司	理工研究域	(機械工学系)	教授
太田 富久	医薬保健研究域	(薬学系)	教授
佐々木敏彦	人間社会研究域	(人間科学系)	教授
真田 茂	医薬保健研究域	(保健学系)	教授
清水 宣明	環日本海域環境研究センター		教授
須釜 淳子	医薬保健研究域	(保健学系)	教授
鈴木 恒雄	総合メディア基盤センター		教授 総合メディア基盤センター長
田崎 和江	理工研究域	(自然システム学系)	教授
陳 一	人間社会研究域	(法学系)	教授
中村 浩二	環日本海域環境研究センター		教授 環日本海域環境研究センター長
中村 裕之	医薬保健研究域	(医学系)	教授 環境保全センター長
中本 義章	理工研究域	(物質化学系)	教授
並木 幹夫	附属病院		教授
橋本 秀雄	理工研究域	(電子情報学系)	教授
松平 光男	人間社会研究域	(学校教育系)	教授
松本 邦夫	がん研究所		教授
松本 宏一	理工研究域	(数物科学系)	准教授
山越 憲一	理工研究域	(機械工学系)	教授
山田 外史	環日本海域環境研究センター		教授
横井 毅	医薬保健研究域	(薬学系)	教授
和田 隆志	医薬保健研究域	(医学系)	教授

共同研究について

企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について、対等の立場で共同して研究を行う制度です。共同研究を行う上で、テーマ・担当教員・進め方等が具体的にお決まりでない場合は、イノベーション創成センターに一度ご相談ください。専任教員とコーディネータが、研究者とのコーディネートを担います。

1 共同研究の種類

企業等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行うタイプの『派遣型』、本学の教員と企業等の研究者が、共通の研究課題について研究を分担し、それぞれの施設において研究を進めるタイプの『分担型』があります。

2 共同研究に必要な経費

民間機関等に負担していただく経費は、次のようになっています。

研究料	企業等の研究者の受入れに必要な経費。 1年度1人につき420,000円。(ただし、研究期間が6ヶ月以内の場合は210,000円。)
直接経費	共同研究に必要な謝金、旅費、消耗品・設備購入費などの直接経費。
間接経費	直接経費の5%

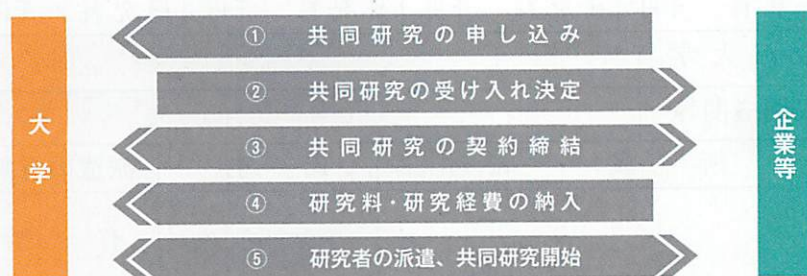
3 共同研究に使用する施設、設備等

本学及び企業等で、使用する施設、設備の維持・管理に必要な経費(経常経費)は、それぞれが負担します。

4 本学への申込時期

随時可能です。

5 共同研究の実施手順



共同研究の「申込書」は、以下のURLどちらからでも、ダウンロードが可能です。

お問合せ先

共同研究に関するご相談について

金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL: 076-264-6111
FAX: 076-234-4019
E-mail: innov@ad.kanazawa-u.ac.jp
URL: <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>

共同研究の手続き・申込みに関するお問合わせ

金沢大学研究国際部産学連携課
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL: 076-264-5904
FAX: 076-234-4012
E-Mail: sangaku@ad.kanazawa-u.ac.jp
URL: <http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/sangaku/index.html>

共同研究申込書

年 月 日

国立大学法人金沢大学長 殿

申込者

〒

住 所

民間機関等名

代表者職・氏名

④

金沢大学共同研究取扱規程を遵守の上、下記のとおり共同研究を申し込みます。

記

1 研究の形態	ア	金沢大学における共同研究			
	イ	金沢大学及び民間機関等における共同研究			
2 研究題目					
3 研究目的及び内容					
4 研究期間	平成 年 月 日から平成 年 月 日まで				
5 研究に要する経費の負担額(総額分) (消費税及び地方消費税を含む)	直接経費	円			
	間接経費	円			
	研究料	円			
	合計	円			
6 2事業年度以上にわたる研究の場合は次年度以降の直接経費及び研究料の全体計画	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	
	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	
7 研究実施場所	金沢大学				
	民間機関等				
8 民間等共同研究員	所 属 ・ 職		氏 名	派遣の有無	
				有 無	
9 希望する研究担当教員	所	属	職	氏 名	
10 提供設備等					
11 その他	担当者, 連絡先等				
	電話	()	-		
	FAX	()	-		
	e-mail	[]			

申込書記入要領

1 研究の形態

企業等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行う場合（派遣型）は、「ア」を○で囲んでください。

本学の教員と企業等の研究者がそれぞれの施設において研究を行う場合（分担型）は、「イ」を○で囲んでください。

4 研究期間

希望する研究期間を記入してください。

5 研究に要する経費の負担額（総額分）（消費税及び地方消費税を含む）

直接経費は、共同研究遂行のために、特に必要となる謝金、旅費、消耗品費、設備購入費等の直接的な経費の合計額を記入してください。

間接経費は、直接経費の5%を計上願います。

研究料は、企業等が本学に研究者を派遣する場合に必要な共同研究員研究料を記入してください。

※間接経費の計算例

直接経費が1,000,000円の場合の間接経費の額は、50,000円となります。

$$1,000,000円 \times 0.05 = 50,000円$$

研究経費（直接経費+間接経費）が1,000,000円の場合の間接経費の額は、47,600円となります。

$$1,000,000円 \times 5 / 105 \div 105 \approx 47,600円 \text{（百円未満切捨て）}$$

6 2事業年度以上にわたる研究の場合は次年度以降の直接経費及び研究料の全体計画

この欄は、研究期間が複数年度で、上記の「5 研究に要する経費の負担額（総額分）」を年度毎に分割してお支払いになる場合に記入してください。（一括してお支払いになる場合は、記入の必要はありません。）

8 民間等共同研究員

「所属・職」欄は、所属部署及び役職名を記入してください。

「派遣の有無」欄は、研究の形態が「ア 金沢大学における共同研究」の場合は「有」を、「イ 金沢大学及び民間機関等における共同研究」の場合は「無」を○で囲んでください。

10 提供設備等

企業等から、本学への貸与設備がある場合に、設備の名称、規格及び数量を記入してください。

記入例：原子吸光光度計（株〇〇社製 A100 1式）

科学技術相談について

科学技術相談は、技術面での情報収集や共同研究に向けての最初のとっかかりとして、とても有効なものです。

本センターでは、随時無料にて、相談を受付けておりますので、お気軽にイノベーション創成センター事務室までお電話またはE-mail（innov@ad.kanazawa-u.ac.jp）にてご連絡ください。

技術アドバイスサービスについて

技術アドバイスサービスは、無料の技術相談と共同研究の間をうめ、よりきめの細かいサービスを行うために、金沢大学イノベーション創成センター協力会のご協力をいただき実施しているものです。

これまで、金沢大学では、学内の先生方の協力をいただき、無料の技術相談を行ってきました。具体的にはイノベーション創成センターの教員、コーディネータ更には学内の専門の先生方が、大学の相談窓口となつて、企業様の抱えていらっしゃる問題をお伺いし、専門の範囲内でのご相談に乗ってきました。

その結果、解決の方向が見え、その実施にあたり、専門の先生のノウハウが必要とされる場合には、共同研究として、更につつこんだ支援をさせていただきました。

共同研究は大学の研究者が興味を持てるテーマが選ばれるのが普通であり、有料であるとともに、必然として研究的性格が優先されてきました。共同研究に対してのこのような取り組み方が、「大学は敷居が高い」といわれる所以でもありました。

技術アドバイスサービスは、研究テーマと
ならないけれども、専門知識を必要とする実
用的な事柄についても、相談に乗って欲しい
という企業様からのご要望に応えようと、金
沢大学イノベーション創成センター協力会
のご支援の下サービスを開始したものです。

技術アドバイスサービスのメリットは、企
業様にとって、

- ① 共同研究に比べ手軽に利用できる
- ② 費用も格段に安く上がる
- ③ 短期間にそれなりの回答（アドバイス）
が得られる

又、大学の研究者にとっては、

- ① 実用性の高い研究ができる
- ② 作業も限定されており、気軽に自分の専
門を生かせる
- ③ 机上作業位の費用は出る
- ④ 企業様の最近の動向が分かる

と双方にとって、メリットがあるものです。
是非有効に活用していただければと思ってお
ります。

技術アドバイスサービスの流れ

1 技術アドバイスサービスは、原則として「1～
2時間の面接を2回」予定しており、費用は3万円
となっております。

1回目

技術アドバイスサービスの1回目は技術相談と似
ております。

研究者とコーディネータが企業の抱えている案件
について詳細に伺います。その際、その案件の問題
点・解決策・将来性を明らかにすることを目的と
し、確認を行います。（納期の確認を含む）

研究者はそこで、確認した事項に関し、過去の経
験を生かして、原因を列挙し、問題点の整理を行
います。

2回目

二回目の打合せでは、研究者が整理した、問題点
もしくは解決策（アドバイス）について、企業様
にご説明いたします。

金沢大学イノベーション創成センター協力会加入の企業様には、年会費分は、サービス費用へ振り替え可能の特典があります。

金沢大学イノベーション創成センターホームページ（<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>）では、「科学技
術相談」および「技術アドバイスサービス」の申込をメールでも随時受付しております。
こちらからは、申込書のダウンロードも可能です。

また、金沢大学イノベーション創成センター協力会ホームページ（[http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/
kyouryokukai/](http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/kyouryokukai/)）では、随時入会のご案内も行っております。是非ご覧ください。

技術アドバイスサービス申込書

金沢大学イノベーション創成センター協会 殿

下記のとおり技術アドバイスを申し込みます。

申 込 者	企業等名				
	所属・職名			ふりがな	
				氏名	
	連絡先	住所	〒		
TEL		()	-		
FAX		()	-		
	E-mail				
アドバイス分野(○で囲んでください) エレクトロニクス 環境・エネルギー 機械 材料(ナノ) ソフトウェア 土木建築 バイオ その他() 担当希望教職員名(できれば記入してください)					
アドバイス概要(具体的に記入してください)					
問題の背景・狙い:					
対象範囲:					
納期・期限:					
その他:					
協会会記入欄(※記入しないでください)					
提 出 先	金沢大学 イノベーション創成センター協会 〒920-1192 石川県金沢市角間町 TEL 076-264-6111 FAX 076-234-4019 E-mail innov@ad.kanazawa-u.ac.jp		※記入しないでください		
			受付日	協会会担当	アドバイス担当教職員

広 報

第20回国立大学法人共同研究センター 専任教官（教員）会議を金沢大学にて開催

2007.9.6
9.7

平成19年9月6日（木）、金沢大学自然科学系図書館棟において、『第20回国立大学法人共同研究センター専任教官（教員）会議』が開催されました。

本会議は、国立大学法人共同研究センターに配属された専任教員間の連絡調整、情報の共有と深化を図ることを目的として1990年から行われております。

はじめに、林学長の開会挨拶の後、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室 室長補佐の吉田秀保氏より「産学官連携の戦略的な展開に向けて」と題し基調講演が行われました。今年度は、「法人化で大学は何が変わったのかー3年間経過した時点での自己検証」をメインテーマとしており、全体会第1部終了後、4分科会の具体的なテーマ毎に分かれて討議が行われました。

本会議の参加大学は北海道から琉球まで全国各地よりの56大学で、講演聴講者を含む約100名の参加者により、会場は埋め尽くされました。

翌7日（金）には「金沢大学の産学連携紹介」と題し、金沢大学インキュベーション施設において、産学官連携活動の説明後、「金沢大学創立五十周年記念館『角間の里』と技術支援センター・環日本海域環境研究センター及びハードラボ施設をめぐる、オプションツアーも開催され、約50名が参加されました。



専任教員会議

イノベーション・ジャパン2007

—大学見本市に出展

2007.9.12
-9.14

「イノベーション・ジャパン2007—大学見本市」が平成19年9月12日（水）～14日（金）に、東京国際フォーラム（東京）で開催されました。

本学からは、医療・健康、ものづくり、ITの各分野の研究成果4件の他に、金沢大学の産学連携実績を紹介しました。

- 「リアルタイムX線ビデオ撮影による
呼吸・循環機能診断支援システム」
大学院医学系研究科 教授 真田 茂
- 「コーンビームCTのアーチファクト除去方法」
大学院医学系研究科 教授 越田 吉郎
- 「走行中障害物即時認識システム（Vision Chip）」
大学院自然科学研究科 講師 秋田 純一
- 「特徴的な指向性を持つマイクとスピーカ」
大学院自然科学研究科 教授 西川 清
- 知的財産本部ブース出展 「高速原子間力顕微鏡」
（大学院自然科学研究科 教授 安藤 敏夫） 他



金沢大学共同研究センター内に 小松工業高等学校作成のAED収納箱を設置

2007.9.13

平成19年9月3日（月）、本センター入口に小松工業高等学校機械システム科の三年生作成によるオーダーメイドのAED（自動体外除細動器）収納箱が、設置されました。きっかけは、研究課題授業の一環としてオーダーメイドの学校用具製作に乗り出すという3月の新聞記事でした。直ぐに本センターが同校へ依頼しました。材料費のみで、より良いものを作成し提供するという思いがこめられたこのAED収納箱は、生徒達が夏休み中も製作したという力作でした。この日、設置にこられた生徒4名と先生は、非常に感慨深げな様子でした。



AED設置

共同研究センター協力会会員企業への 工場見学の開催

2007.9.21

平成19年9月21日（金）、工学部電気電子工学科、情報システム工学科3年次学生約80名が参加する工場見学が、7月中旬の工学部人間機械工学科3年次学生による工場見学に引き続き、共同研究センターの協力により開催されました。就職、大学院進学を控えている学生に対し、教科学習の現実感を高めると共に今後の進路判断の一助とすることを目的として、開発・製造の現場実務に接することの出来る工場見学を実施するもので、今年度は石川県内の企業を対象に行われました。

当日は、同時並行で、4コースに分かれ、工場見学が実施されました。中でも、協力会企業であるアイ・オー・データ機器では、開発企画と技術担当者から、開発の経緯と製作がどのようにして進められたのか製品のデモンストレーションがあり、製品を囲んで開発者と学生の間で質疑応答も行われ、学生に非常に好評でした。

また、各企業担当者より、求められる人材について、電気系の技術のみという固定概念ではなく、考えるあらゆる分野に広い知識、関心を持てる人材であり、チームで仕事をするため、第一にコミュニケーション能力、報告書をまとめる能力等が必要な資質であると大変貴重なお話を頂戴しました。

今回の工場見学は、協力会企業との関係を深める非常に良い機会となり、学生にとっては、来春に控えた就職活動へ向けて大変有益な機会となりました。

見学先：石川県内の電気情報系企業 9社

PFU、横河電機、パナソニックモバイル金沢研究所、金沢村田製作所、アイ・オー・データ機器、澁谷工業、東芝松下ディスプレイテクノロジー、NEC北陸ソフトウェア、ナナオ

【内協力会企業】

横河電機、アイ・オー・データ機器、澁谷工業、NEC北陸ソフトウェア



開発者による製品のデモンストレーション風景
(アイ・オー・データ機器)

次世代医療システム産業化フォーラム2007

2007.9.27

平成19年9月27日(木)、大阪商工会議所7F国際会議ホールにて「次世代医療システム産業化フォーラム2007第6回定例研究会」が開催されました。このフォーラムは、2007年4月から翌年3月まで開催される予定で、月1で定例研究会等が行われており、金沢大学からは、9月開催の第6回に下記の者が発表しました。医療・バイオ機器開発の最新情報をお伝えするとともに、全国の医療関係者・研究者から医療・研究現場のニーズや研究機関の研究成果が示され、企業に直接、製品化にむけた共同開発が提案される新しい仕組みとなっております。

当日は、最先端の研究内容が具体的な事例を用いて分かりやすく発表され、約120名の参加者に大変好評でした。

第一部：最新情報提供セッション

金沢大学発表者

「生活習慣病と関連する新規肝臓蛋白」

金沢大学医学部長 教授 金子 周一 氏

第二部：共同開発提案セッション

金沢大学発表者

「MRI造影剤リゾビストと電磁誘導加熱装置を組み合わせた新規癌治療システムの開発」

金沢大学理事・副学長 長野 勇

金沢大学共同研究センター産学官連携コーディネーター 長江 英夫

「画像標準化を目的としたファントムおよび

画像評価解析システムの開発」

金沢大学大学院医学系研究科量子医療技術学講座 教授 小野口昌久

「患者別骨強度解析の骨粗鬆症診断および

インプラント開発への応用」

金沢大学大学院自然科学研究科システム創生科学専攻 准教授 坂本 二郎

CEATEC JAPAN 2007に出展

2007.10.2
-10.6

最先端IT・エレクトロニクスの総合展示会「CEATEC JAPAN 2007 (シーテック・ジャパン2007)」が平成19年10月2日(火)～6日(土)に幕張メッセ〔千葉〕で開催され、本学は、「電磁界空間分布可視化装置」(大学院自然科学研究科 八木谷 聡 准教授)及び「導電性布地からなる衣服を用いるウェアラブル・コンピュータ・システム」(大学院自然科学研究科 秋田 純一 講師)を紹介しました。



北陸技術交流テクノフェア2007への出展

2007.10.19
-10.20

平成19年10月19日、20日の両日、福井県産業会館にて「北陸技術交流テクノフェア2007」が開催され、2日間で19856人もの来場者がありました。

同フェアは金沢のMEXとともに北陸地方での2大技術展示会で、平成2年より開催し、本年度で18回目を迎える北陸最大規模の産学官の交流会となっております。同フェアでは企業、大学・高等専門学校、公設試験場・研究機関、支援機関等が持つ優秀な技術、製品を一堂に展示実演し、紹介しています。

今年度は、「着る技術未来テクノロジー」という『着る・身に着ける技術＝繊維とめがね』と『先端技術』の融合による新たな展開を探る特別展も行われました。また、直接人体等に身につける技術を基幹技術とし、それらに付加する技術としての組合せや付加される技術に適した『繊維・めがね』の研究開発をどのように行っていくか、両方の技術開発に携わる人たちとの接点の場“WEAR-ABLE・MEETING (ウェアラブル・ミーティング)”や、技術プレゼンテーションも同時進行で行われました。本学からの出展及び発表は以下の通りです。

□技術プレゼンテーション【身につける技術 分野】

「ユビキタスヘルスケアセンシングシステムの開発」

～いつでもどこでも健康チェックシステム～

金沢大学大学院 講師 本井 幸介

□ウェアラブルミーティング発表

「導電性衣服を用いたネットワークシステム」について

金沢大学 秋田研究室 戸田 真志

「いつでもどこでも健康チェックシステム」について

金沢大学 山越研究室 五十嵐 朗

□出展

○「導電性衣服を用いたネットワークシステム」

(工学部情報システム工学科 講師 秋田 純一 研究室)

○「いつでもどこでも健康チェックシステム」

(工学部人間・機械工学科 教授 山越 憲一 研究室)

○共同研究センターの活動紹介

□大学発ベンチャー

○金沢電子出版(株) [KeP]

e-Learning

○コミュニカ(株)・金沢大学長谷川研究室

ものづくり・環境・科学教材一簡易比色計一



秋田研究室



山越研究室

第4回「企業の夢と大学に託す希望」 企業発表会の開催

2007.11.20

平成19年11月20日(火)、金沢大学インキュベーション施設セミナー室にて、第4回「企業の夢と大学に託す希望」企業発表会を開催いたしました。この企業発表会は、平成17年度より開催し、今回で4回目の開催となります。金沢大学共同研究センター協会会員企業の皆様から、本学教職員及び学生をはじめ協力会関係者を対象に会社の概要や研究開発への取り組みをご発表いただき、地元企業様のニーズをよりよく知り、共同研究へのきっかけ作りや、学生にとっては今後の研究・就職活動へのヒントを得る機会でもあります。

今回の発表企業は、株式会社キュービクス、山越株式会社、平松産業株式会社、株式会社アイ・オー・データ機器の4社で、会場は、ほぼ満員の60名の参加者が集まりました。終了後に、懇談会も開催されこちらへも多数ご出席いただき、多方面の分野同士、親睦を深める良い機会となりました。

□「遺伝子発現解析を基盤とするDNAチップの臨床応用と事業化」

株式会社キュービクス 代表取締役社長 丹野 博 氏

□「今を生きる方への良品提供/光触媒を利用した商品開発」

山越株式会社 代表取締役社長 山中 友希 氏

□「技術に賭ける 世界に駆ける 小さな大企業」

平松産業株式会社 代表取締役 竹田 忠彦 氏

□「リビング エンターテインメントへ」

株式会社アイ・オー・データ機器 執行役員 開発本部長 平野 義久 氏



企業発表会

産学官フォーラム

「産学官連携と大学への期待」を開催

2008.1.26

平成20年1月26日（土）にKKRホテル金沢で、文部科学省大学知的財産本部整備事業産学官フォーラム「産学官連携と大学への期待」を開催しました。大学、企業、県、市などから約180名が参加し、産学官の連携を深めるために意見交換をしました。

林勇二郎学長、細野昭雄共同研究センター協力会長の挨拶に続き、田口康文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長から「産学官連携の戦略的な展開」と題する基調講演が行われました。その後、山本博産学官連携推進室長が、「産学官連携の新たな組織とその使命」と題する報告を行い、平成20年4月以後の本学の産学官連携業務を遂行する新組織「イノベーション創成センター」の概要について紹介しました。

パネルディスカッション及び意見交換会では、産学官の各分野のパネリストとコーディネーターから、大学との連携

を進める上での課題、期待することについての活発な議論が行われ、出席者からも、産学官連携を進める地元大学に何を期待するかについて、積極的な意見が寄せられました。



意見交換会

金沢大学連携こまつものづくり 技術シーズ発表会

2008.2.27

平成20年2月27日（水）、小松市民センターにて、平成17年に結ばれた、小松市、日本政策投資銀行、金沢大学共同研究センターの3者による、産学官連携協定に基づく具体的連携内容の一つとして、「金沢大学連携こまつものづくり技術シーズ発表会」が開催されました。

当日は、第一部に、金沢大学の工学系、医学系5名の教員による研究発表、第二部には、共同研究センター協力会会員でもある小松電子（株）による「小松ものづくり助成金成果発表」および助成金や各種制度のご案内が行われ、会場は、小松市内だけではなく、地域企業の方が沢山参加し、約70名の参加者で、埋め尽くされました。

技術シーズを発表された教員との個別相談も併せて行われ、今後の共同研究等、産学官連携へつながる機会となりました。

第1部 技術シーズ発表

「ヒ素無機化細菌を利用した有機ヒ素汚染土壌の
ファイトレメディエーション」

金沢大学大学院自然科学研究科（工）准教授 牧 輝弥

「硫酸塩還元細菌を活用した汚泥削減と窒素除去法の開発」

金沢大学大学院自然科学研究科（工）教授 池本 良子

「安全な力変換型遠隔制御ロボットの開発」

金沢大学大学院自然科学研究科（工）准教授 滑川 徹

「高強度・高導電率銅合金薄板材の開発」

金沢大学大学院自然科学研究科（工）教授 北川 和夫

「超音波を用いた筋力測定装置の開発」

金沢大学大学院医学系研究科（医）助教 宮本 賢作

第2部 助成金制度等のご案内及び成果発表

・助成金制度概要説明（小松市）

・小松ものづくり助成金成果発表

「超純水製造装置（KE0109）」

小松電子株式会社 システム技術部 開発設計 林 哲

・日本政策投資銀行より制度案内

・（株）北國銀行より制度案内



自然科学研究科 池本良子教授によるシーズ発表

平成20年4月1日、 イノベーション創成センター発足

2008.4.1

同センターは、従来の共同研究センター、知的財産本部、インキュベーション施設及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合し、設置されました。

イノベーション創出のプラン・体制を構築する「将来開拓部門」、イノベーション創出を加速する共同研究活動を推進する「連携研究推進部門」、イノベーション成長の戦略を固める「知的財産部門」、そしてイノベーション成長

を飛躍させるための起業化を支援する「起業支援部門」の4部門から成り、プロデュース機能である「イノベーションの創出」とコーディネート機能である「イノベーションの成長」が有機的に発揮される組織となっています。産学官連携・知的財産活動による研究成果の社会還元及び教育研究の活性化をより一層推進いたします。

イノベーション創成センター 名称プレートの除幕式を開催

2008.4.22

平成20年4月22日(火)、イノベーション創成センターの名称プレート除幕式が、中村信一学長、長野勇理事(研究・国際担当)、吉國信雄イノベーション創成センター長により、関係者が見守る中、執り行われました。



除幕式



学長、理事、センター関係者

MEX 金沢2008へ出展

2008.5.22
-5.24

平成20年5月22日(木)から24日(土)の3日間、石川県産業展示館にて、MEX金沢2008「機械工業見本市金沢」が開催されました。今年で46回目を迎えるこのイベントには、146社の出品者が一堂に集まり、過去最高の68,562人ももの入場者数が訪れました。

本学からは、下記の2名の先生とイノベーション創成センターが出展しました。

来場者へ分かりやすく説明をする教員や学生の姿が印象的でした。今年度は、イノベーション創成センターによる、「大学への意識調査・あり方」に関するアンケートを同時に行い、多くの皆様のご協力により、379人ももの回答を得ることができました。金沢大学に対し、多くの関心が寄せられたものと思われ、今後の参考にさせていただきたいと思います。

大野 浩之 総合メディア基盤センター (教授)

「非常時対応電子アーミーナイフの携帯電話や電子手帳等での実現」

イノベーション創成センター

- ・イノベーション創成センターの組織説明と産学連携制度のパネル展示
- ・技術アドバイスサービス及び共同研究等のご相談
- ・大学への意識調査に関するアンケート



総合メディア基盤センター
教授 大野 浩之 先生(右)



理工研究域
教授 新井 豊子 研究室

新井 豊子 理工研究域 (教授)

「ペンシル型走査プローブ顕微鏡の開発」

第7回産学官連携推進会議に出展

2008.6.14
-6.15

平成20年6月14日～15日に京都で開催された「第7回産学官連携推進会議」に出展しました。

本年度から新設された「イノベーション創成センター」の紹介をはじめ、医薬保健研究域医学系 渡邊 剛教授「心臓にベタリ『パッド』で 細動除去」、医薬保健研究域医学系 東田 陽博教授「自閉症に福音 CD38による診断と治療」及び理工研究域電子情報学系 北川 章夫准教授「手のひ

らサイズ 電子磁気共鳴装置」の3つの発明について紹介し、熱気ある会場の中で、来場者の本学への関心も高く、これからのイノベーションへ向けての期待の大きさを感ずるものでした。



平成20年度金沢大学 イノベーション創成センター協力会総会を開催

2008.6.23

平成20年6月23日（月）、KKRホテル金沢にて、平成20年度金沢大学イノベーション創成センター協力会総会が開催されました。総会では、平成19年度事業報告及び収支決算報告、平成20年度事業計画案及び収支予算案についての承認が行われ、会長からは、「これまで以上に大学との密接な協力関係を構築していきたい」と発言があり、今後の計画案が提案された。

また、金沢大学理事であられる田中隆治氏による「サントリーは、なぜバイオテクノロジーに取り組むのか～新しい商品の開拓を目指して～」と題し特別講演会も行われま

した。

その後、大学関係者と会員企業様との交流を図る懇談会も開かれ、新規会員企業の紹介等が行われました。



田中隆治理事による特別講演会

金沢大学イノベーション創成センターと 国民生活金融公庫との産学連携の協力推進に関する覚書締結

2008.7.1

平成20年7月1日（火）、金沢大学イノベーション創成センターにおいて、「金沢大学イノベーション創成センターと国民生活金融公庫との産学連携の協力推進に関する覚書」が、吉國 信雄 金沢大学イノベーション創成センター



森田小松支店長（左）、金森金沢支店長（中央）、吉國イノベーション創成センター長（右）

長と国民生活金融公庫 金森 潤 金沢支店長及び森田 彰 小松支店長により締結されました。

本覚書は、金沢大学の研究成果等を地域社会に一層円滑に還元し、地

域の産学連携を推進するもので、地域中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的としております。

金沢大学イノベーション創成センターと国民生活金融公庫（金沢支店・小松支店）に、産学連携の協力推進にかかる窓口を設置し、

- ・大学の研究成果等のシーズと地域中小企業等の技術ニーズとのマッチング
 - ・国民生活金融公庫の取引先企業からの技術相談に関する支援
 - ・地域中小企業等の技術ニーズの情報収集及びそれに対する情報提供
- の支援を行います。

金沢大学新技術説明会を開催

2008.7.15

平成20年7月15日に、東京・市ヶ谷の科学技術振興機構JSTホールで、「金沢大学新技術説明会」を開催しました。

本学が特許出願済みで技術移転可能な研究成果（新技術）6件を研究者自らが説明するもので、関心を持つ多くの企業関係者が延べ500人程度来場し、説明に耳を傾けました。

理工研究域電子情報学系 川江 健 助教

「低リーク電流 BiFeO₃系非鉛強誘電体材料」

理工研究域電子情報学系 八木谷 聡 准教授

「電磁界空間分布可視化装置～見えない電磁界を見る～」

理工研究域機械工学系 榎本 啓士 准教授

「局所接触型マイクロ波加熱式インジェクターバイオ燃料の利用」

理工研究域機械工学系 安達 正明 教授

「メタリック塗装などのクリア層厚みの非接触精密測定法」

医薬保健研究域薬学系 加藤 将夫 准教授

「クローン病の新しい診断方法と予防・治療への応用の可能性」

医薬保健研究域医学系 篁 俊成 准教授

「肝臓由来分泌タンパク質を標的とした2型糖尿病等の治療」



温暖化防止フェスタかなざわ2008に出展

2008.7.19

平成20年7月19日（土）に金沢歌劇座で開催された「温暖化防止フェスタかなざわ2008」に出展しました。理工研究域機械工学系教授 瀧本昭研究室「エネルギーとは・環境浄化植物パネル展示」、理工研究域機械工学系准教授 児玉昭雄研究室「デシカント空調デモ機展示」、および、本年度から新設された「イノベーション創成センター」について紹介し、本学が取り組む温暖化防止に関する技術について、市民来場者へ分かりやすく説明いたしました。



知的財産セミナー「ライフサイエンス分野の特許セミナー ― 何が特許になるの? ―」を開催

2008.7.24

平成20年7月24日(木)に金沢大学医学類G棟第三講義室で、特許庁から特許審査第三部医薬品製剤の長部喜幸審査官を講師に招いて、特許庁・金沢大学知的財産セミナー「ライフサイエンス分野の特許セミナー―何が特許になるの?」を開催しました。

研究者や学生のライフサイエンス分野の特許に対する関心は相当高く、企業、県、TLOを始め、金沢大学の研究者、学生、産学官連携部署職員など約110名が参加しました。

吉国 信雄金沢大学イノベーション創成センター長による本セミナーの意義を述べた開会あいさつに引き続き、長部審査官による講演「ライフサイエンス分野における特許審査について」が行われ、参加者は、「特許になる発明とは?」を皮切りに国内外の特許取得手続からライフサイエンス分野の審査基準(具体例)に至るまでを1時間半にわたって学びました。講演後は、講師及び参加者の間で活発な質疑応答が行われました。

最後に、山本 博金沢大学医薬保健研究域長による閉会あいさつがあり、本セミナー開催に対する謝辞が述べられました。



長部 喜幸特許庁審査官による講演

パテントセミナーを開催

(第1回、第2回、第3回、第4回、第5回)

2008
6.19・6.24
7.1・7.8・7.15

平成20年6月19日の第1回より、毎週火曜日に開講してきた「パテントセミナー」の第5回が7月15日に行われ、5回のセミナーの開講を完了しました。

「平成20年度パテントコンテスト」(文部科学省、特許庁他主催、9月19日(金)申込締切り)への学生の参加を促すことを目的に、日本弁理士会の支援を得て、学部学生及び大学院学生を対象に、短期間(1ヶ月位)で、アイデア抽出から特許出願までを指導するセミナーを開講しました。

参加した学生は、セミナーに参加し、毎回、弁理士や特許情報検索アドバイザー、企業で知的財産管理責任者として経験を積んだ本学教員ら専門家のアドバイスを受けて、学生自身が持つアイデアの実現を目指しました。

今後は、学生からの質問に対し、専門家が個別に回答し、更なる発明の具体化を進めて、「パテントコンテスト」の応募や特許出願を目指すこととしています。



〔第2回〕 下田弁理士による講義 (左)

次世代医療システム産業化フォーラム2008

2008.9.10

平成20年9月10日(水)、大阪商工会議所国際会議ホールにて「次世代医療システム産業化フォーラム2008第6回定例研究会」が開催され、本学より3名の招待講演がありました。今年度は、54機関128社が参加しております。このフォーラムは、産学官医が連携して、医療現場、研究現場で必要とされる医療機器や研究開発支援機器などの開発促進を目的としており、2003から開催されております。毎月開催される定例会では、定期的に医療現場や研究現場のニーズやシーズが示され、共同開発が提案される新しい仕組みとなっており、早速共同研究を打診される企業もありました。

第一部：最新情報提供セッション

金沢大学講演者

「非侵襲生体計測技術の新展開

—ユビキタス・ヘルスケアモニタリング—

金沢大学大学院自然科学研究科知的システム創成

教授 山越 憲一

第二部：共同開発提案セッション

金沢大学講演者

「カフェイン併用化学療法と患肢温存縮小手術の開発」

金沢大学大学院医学系研究科機能再建学（整形外科学）

准教授 土屋 弘行

「アレルギー発症予防用環境中化学物質除去フィルターの開発」

金沢大学大学院医学系研究科環境生態医学・公衆衛生学

教授 中村 裕之



山越教授による最新情報提供セッション

イノベーション・ジャパン2008〔東京〕出展

2008.9.16
-9.18

平成20年9月16日(火)～18日(木)に、東京国際フォーラムで「イノベーション・ジャパン2008」が開催されました。本学も、研究成果等を紹介するために5ブースを出展し、多くの来場者の関心を集めました。

- 「小型ESR測定装置の開発とその応用」
北川 章夫 准教授〔理工研究域〕
- 「電磁界空間分布可視化装置～見えない電磁界を見る～」
八木谷 聡 准教授〔理工研究域〕
- 「自閉症に福音 CD38による診断と治療」
東田 陽博 教授〔医薬保健研究域〕
- 「多価不飽和脂肪酸による高次脳機能（記憶・認知）障害の改善」
山嶋 哲盛 准教授〔医薬保健研究域〕
- 金沢大学産学官連携推進体制および日本海地域大学イノベーション技術移転機能（KUTLO-NITT）事業紹介



イノベーション創成センター刊行物の紹介

平成19年8月以降、イノベーション創成センターからの刊行物は以下のとおりです。

入手ご希望の方は、イノベーション創成センター事務室までご連絡ください。無料でお送りいたします。

- 1 金沢大学共同研究センターニュース vol.16 (平成19年8月刊行)
- 2 金沢大学共同研究センターNEWS LETTER 第14号 (平成19年11月刊行)
- 3 金沢大学イノベーション創成センターNEWS LETTER 第1号 (平成20年5月刊行)
- 4 金沢大学イノベーション創成センターパンフレット (平成20年6月作成)

1 金沢大学共同研究センター ニュース Vol. 16

年1回
発行

- 巻頭のことば
「知と地域と世界」
金沢大学共同研究センター長 山本 博
- 産学官連携の声
「産学官連携における北陸銀行の取り組み」
産学官地域アドバイザー 小石 芳一
「大学よどこへ行く？」
金沢大学共同研究センター 准教授 分部 博
- 客員教員紹介
- 産学官地域アドバイザー紹介
- 共同研究
平成18年度共同研究一覧
平成19年度シーズ発掘試験採択一覧
- 活動状況の紹介 (11件)
- 新聞報道記事紹介
- 制度・支援の紹介



2 金沢大学共同研究センター NEWS LETTER 第14号

年数回
発行

- 巻頭言
「Into fresh wineskins - 2008年、金沢大学共同研究センターは新センターに生まれ変わります-」
金沢大学共同研究センター長・産学官連携推進室長 山本 博
- 平成19年度共同研究実施状況について
(平成19年4月1日～10月11日現在)
- 共同研究センター活動状況報告 (5件)
- 新任産学官地域アドバイザーの紹介



3 金沢大学イノベーション創成 センターNEWS LETTER 第1号

年数回
発行

- 巻頭言
「2008年4月1日、イノベーション創成センターが発足しました-」
金沢大学イノベーション創成センター長・教授 吉國 信雄
- 平成19年度共同研究実施状況について
(平成19年10月12日～平成20年3月31日現在)
- イノベーション創成センター活動状況報告 (3件)
- イノベーション創成センター・副センター長、起業支援部門長 (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長、インキュベーション施設長) 就任のご挨拶
瀧本 昭 (理工研究域機械工学系 教授)
- イノベーション創成センター将来開拓部門長就任のご挨拶
大友 信秀 (人間社会研究域法学系 教授)
- イノベーション創成センター連携研究推進部門長就任のご挨拶
渡辺 良成 (教授)
- イノベーション創成センター知的財産部門長就任のご挨拶
分部 博 (准教授)
- 新任産学官地域アドバイザーの紹介



4 金沢大学イノベーション 創成センターパンフレット



その他

金沢大学イノベーション創成センター協会入会案内パンフレットご希望の皆様はイノベーション創成センター事務室までご連絡ください。



金沢大学イノベーション創成センター
TEL : 076-264-6111
E-Mail : innov@ad.kanazawa-u.ac.jp



産学官連携をより活発に、より円滑に推進するため
大学と企業を橋渡しするコーディネーターを紹介します。

フットワーク軽く 企業と大学を橋渡し

金沢大学イノベーション創成センター
産学官連携コーディネーター
長江 英夫氏



コーディネーターとしてだけでなく、卓球の国際審判員やフィッシングインストラクターなど、さまざまな分野で活躍する長江氏

企業と大学、双方のメリットを念頭に

金沢大学のイノベーション創成センターにおいて、産学官連携コーディネーターとして活躍しているのが長江英夫氏である。長江氏は民間企業で36年にわたって医薬品の研究を手がけてきたキャリアを有し、企業と大学の共同研究や知的財産管理についても豊富な経験を持つ。

平成17年4月に金沢大学へ赴任して以降、企業のニーズにこたえ、いくつもの製品開発、技術開発に携わってきた。

県内繊維メーカーからの依頼を受けて抗菌繊維開発を進展させたのも成果の一つだ。また、県内電子システムメーカーでは大学教員との共同研究を仲介し、医薬品の開発などに使う超純水の製造装置について、その性能をデータで実証し、製品の信頼性向上に貢献した。現在も、大手文具メーカーと人に優しい文具開発を手がける共同研究をコーディネートするなど多忙な日々を送る。

大学の研究者からシーズを集め、企業との共同研究などに際して、時には仲介役を、時にはアドバイザーを務めるコーディネーターとして長江氏が心がけているのが軽いフットワークである。「電話や書面だけのやりとりだけではうまくいかない場合が多い。企業の経営者でも、大学の先生でも、実際に会って、膝を突きあわせて話すことで、得意な技術や能力、連携にかけられる熱意などがよく分かる」と長江氏は話す。

また、産学官連携をスムーズに進めるには、密なコミュニケーションと同時に、例えば、企業側は自社で実施が困難な実験ができる、研究者側は専門性を生かして研究資金

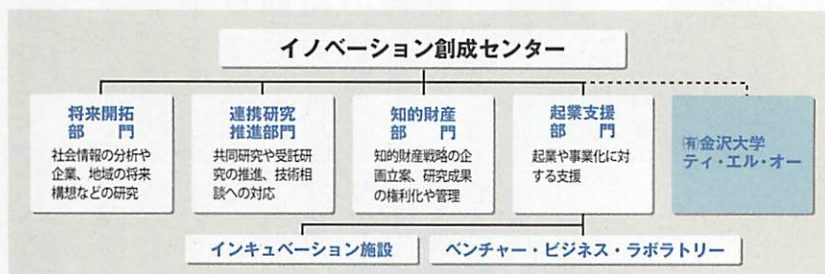
が手に入るといった具合に企業と大学の双方にとってメリットのある方法を見いだすことが重要だという。

文系の知識やノウハウも提供

ところで、イノベーション創成センターは、金沢大学の「共同研究センター」「知的財産本部」「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL)」「インキュベーション施設」を統合し、これに文科系の新設部門「将来開拓部門」が加わって今年4月に発足した。産学官連携にかかわる組織を一体的に運営することで、大学の持つシーズと企業のニーズとのマッチング、共同研究で生まれた成果の権利化などをより一層スムーズにするのが狙いである。

同時に、「従来、企業と大学の共同研究と言えば、工学系の分野が主だったが、同センターでは、総合大学としての強みを生かし、経済学や法学、教育学など文系の研究者も知識やノウハウを提供する」と長江氏はその特徴を話す。

イノベーション創成センターの取り組みは始まったばかりだが、長江さんは「研究成果の地域社会への還元は大学の重要な役割。一つでも多くを連携したい」と腕をさすり、「電話でも、メールでも、とにかく気軽に声をかけてほしい」と呼びかける。



●お問い合わせ
金沢大学
イノベーション創成センター
金沢市角間町
TEL.076-264-6111
<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>
innov@ad.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学産学官連携関係一覧

産学官連携推進本部

長野 勇	本部長 金沢大学理事・副学長 (研究国際担当)
吉國 信雄	副本部長 イノベーション創成センター長
片桐 和雄	人間社会研究域長
中尾慎太郎	理工研究域長
山本 博	医薬保健研究域長
瀧本 昭	イノベーション創成センター副センター長
大友 信秀	イノベーション創成センター将来開拓部門長
渡辺 良成	イノベーション創成センター連携研究推進部門長
分部 博	イノベーション創成センター知的財産部門長
千葉 正	研究国際部長
飯野美智子	産学連携課長
平野 武嗣	文部科学省産学官連携コーディネーター

イノベーション創成センター

吉國 信雄	センター長 イノベーション創成センター教授
瀧本 昭	副センター長 起業支援部門長 (理工研究域機械工学系教授)
大友 信秀	将来開拓部門長 (人間社会研究域法学系教授)
渡辺 良成	連携研究推進部門長 イノベーション創成センター教授
分部 博	知的財産部門長 イノベーション創成センター准教授
瀬領 浩一	イノベーション創成センター特任教授
池田 穂高	イノベーション創成センター特任教授
志岐 弘之	イノベーション創成センター特任教授
平子 紘平	イノベーション創成センター特任助教
矢野 弘	協力会事務局長
加藤真由美	事務室
川江 一枝	事務室
塚林 美沙	事務室

(客員教授)

飯島 泰裕	岡山学院大学 社会情報学部 大学院社会情報学研究所 教授
奥野 信男	丸文通商(株) 営業支援グループ 担当部長
斯波久二雄	(株)BM総研 吹田事務所長
多喜 義彦	システムインテグレーション(株) 代表取締役社長
中井 純	(株)アットワイヤレス 代表取締役社長
平野 武嗣	文部科学省産学官連携コーディネーター

(研究員)

海野 徹	(有)金沢大学ティ・エル・オー ライセシング・アソシエイト
------	-------------------------------

産学官連携コーディネーター

平野 武嗣	文部科学省産学官連携コーディネーター
長江 英夫	金沢大学産学官連携コーディネーター

産学官地域アドバイザー

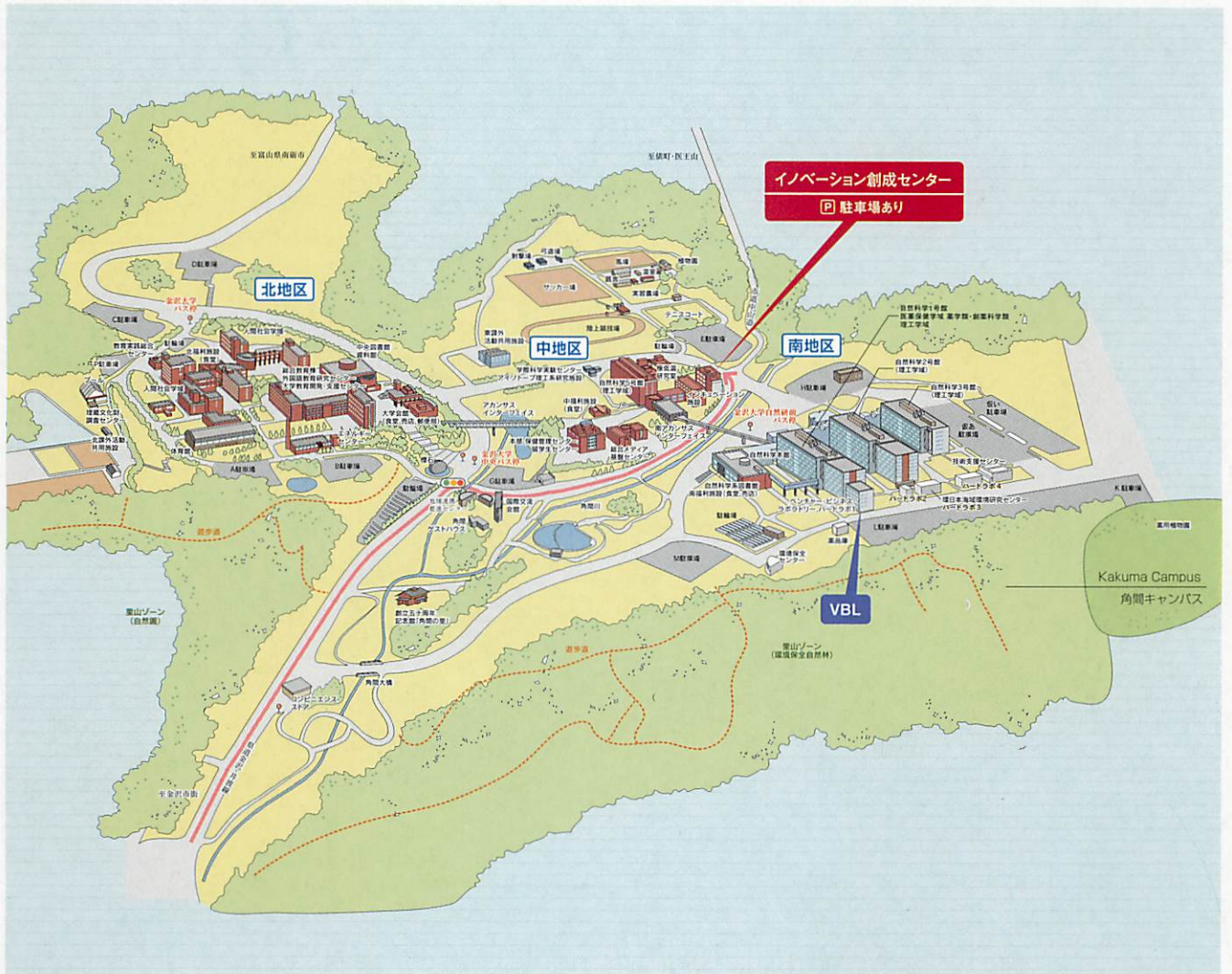
粟井 憲之	小松市 経済環境部商工振興課 課長
飯塚 伸之	日本政策投資銀行北陸支店 企画調査課 副調査役
大江 聡	(株)北國銀行 営業統括部法人営業課 課長代理
奥野 信男	丸文通商(株) 営業支援グループ 担当部長
小木 茂	金沢市 産業局 ものづくり政策課 主査
小石 芳一	(株)北陸銀行 支店部 石川地区駐在 副部長
酒井 正二	(財)石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部長
笹倉 利通	野村證券(株) 金沢支店 次長兼企業金融課長
水口由紀夫	富木医療器(株) 科学機器営業部 部長
村上 和幸	金沢信用金庫 常務理事 業務推進部門担当 兼 業務開発部長

研究国際部

千葉 正	研究国際部長
飯野美智子	産学連携課長
廣瀬 敏之	産学連携課副課長
町元 充	産学連携課知的財産係長
西尾都代子	産学連携課産学連携係 主任
大板 聡子	産学連携課産学連携係
久保 祐子	産学連携課産学連携係
吉田 純子	産学連携課産学連携係
近藤 真史	産学連携課知的財産係
桜井 奈美	産学連携課知的財産係
浜松ゆかり	産学連携課知的財産係

(有)金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO)

板垣 英治	代表取締役社長 (金沢大学名誉教授)
平野 武嗣	取締役 (文部科学省産学官連携コーディネーター)
畑中 建治	監査役 (金沢大学監事)
高田 律子	ライセシング・アソシエイト
常山 知広	ライセシング・アソシエイト
海野 徹	ライセシング・アソシエイト (弁理士)
中村 尚人	ライセシング・アソシエイト
吉田 真弓	ライセシング・アソシエイト (NEDOフェロー)
坂口菜朋子	ライセシング・アソシエイト補佐
表 真佐美	総務・経理担当
五十嵐泰蔵	(社)発明協会・特許流通アドバイザー
瀨本 寛	(社)発明協会・特許流通アソシエイト
奈良 俊彦	シニア・アドバイザー



金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町
 tel.076-264-6111(代表) fax.076-234-4019
 e-mail innov@ad.kanazawa-u.ac.jp
<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>

金沢大学イノベーション創成センター 小松サテライト

〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地
 小松市役所 2F 経済環境部商工振興課内
 tel.0761-24-8074 fax.0761-23-6404